

もくじ

もくじ	1
はじめに	6
DynaBook でやりたいことを探そう！	12

1章 本体の機能

17

1 各部の名前	18
① 前面図	18
② 背面図	20
③ 裏面図	21
2 システムインジケータ	23
3 モードパネルと各ボタン	24
① モードパネル	24
② ワンタッチボタン	26
③ オーディオ／アプリケーションボタン	26
④ 東芝コントロールで設定する	28
4 キーボード	34
① キーボード図	34
② キーシフトインジケータの切り替え	36
③ キーを使った便利な機能	37
5 タッチパッド	41
① タッチパッドを設定するには	41
② タッピング機能	42
③ その他の設定	46
④ タッチパッドを無効／有効にするには	47
6 ディスプレイ	49
① ディスプレイの設定	49
7 ハードディスクドライブ	55
① ハードディスクドライブに関する表示	55
8 サウンド機能	56
① スピーカの音量を調整する	56
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	57
9 ドライブ	59
① CD／DVD について	59
② DVD-RAM を使うときは	64

10	SDメモ리카ード	69
	① SDメモ리카ードについて	69
	② SDメモ리카ードのセットと取り出し	70
	③ SDメモ리카ードを使う前に	71
11	リモコン	73
	① リモコンについて	73
	② 電池の取り付け／取りはずし	74
	③ リモコンの各部名称	76
12	セキュリティロック	78

2章 音楽と映像

79

1	音楽CDを聴く	80
	① Windowsを起動して音楽CDを聴く	80
	② Windowsを起動しないで音楽CDを聴く	83
2	音楽ファイルを聴く	85
	① 音楽再生用アプリケーションを起動する	85
	② Windows Media Playerでファイルを再生する	86
3	オリジナル音楽CDを作る	89
	① Drag'n Drop CDを使うために	89
	② Drag'n Drop CDを使う	91
4	オリジナルMDを作る	95
5	DVD-Videoを観る	96
	① InterVideo WinDVDを起動する	97
	② InterVideo WinDVDを使う	99
6	デジタルカメラの写真を編集／整理する	103
	① デジカメ Walkerを使う	103
7	映像を編集する	106
	① 映像編集の流れ	106
	② アプリケーションをインストールする	107
	③ 映像を編集する	108
	④ 編集した映像を書き込む	110

3章 通信機能

117

- 1 LANへ接続する 118
 - ① ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN） 118
 - ② ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN） 120
 - ③ ネットワーク設定／デバイスを切り替える 130
- 2 Bluetooth機能を使う 133
 - ① Bluetoothとは 133
 - ② Bluetooth機能を使って通信する 135
 - ③ Bluetooth通信を切断する 142
 - ④ Bluetooth東芝ユーティリティを終了する 143
- 3 新着メールをモードパネルで確認する 144
 - ① 新着メールチェックの設定をする 144
 - ② 新着メールを確認する 151
 - ③ 新着メールチェックを停止する 151
- 4 内蔵モデムについて 153
 - ① 海外でインターネットに接続する 153

4章 周辺機器の接続

157

- 1 周辺機器について 158
 - ① 周辺機器を使う前に 159
- 2 マルチスタイルベイ機器を差し替える 160
 - ① マルチスタイルベイ機器について 160
 - ② マルチスタイルベイ機器の差し替え 160
- 3 フロッピーディスクドライブを接続する 163
 - ① フロッピーディスクドライブ 164
 - ② フロッピーディスク 165
 - ③ フロッピーディスクを使う前に 166
- 4 PCカードを接続する 170
 - ① PCカードを使う前に 170
 - ② PCカードを使う 171
- 5 USB対応機器を接続する 173
- 6 テレビを接続する 175

7	CRTディスプレイを接続する	180
8	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	181
9	光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する	183
10	その他の機器を接続する	186
	① マイクロホン	186
	② ヘッドホン	187
	③ オーディオ機器	188
11	メモリを増設する	190

5章 バッテリー駆動

197

1	バッテリーについて	198
	① バッテリー充電量を確認する	199
	② バッテリーを充電する	202
	③ バッテリーパックを交換する	204
2	省電力の設定をする	206
	① 東芝省電力ユーティリティ	206
3	パソコンの使用を中断する／電源を切る	212
	① スタンバイ	212
	② 休止状態	214
	③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	215

6章 アプリケーションについて

217

1	アプリケーションを使う前に	218
2	アプリケーションを追加（インストール）する	220
3	アプリケーションを削除（アンインストール）する	221

7章 システム環境の変更

223

1	システム環境の変更とは	224
2	東芝HWセットアップを使う	225
	① 東芝HWセットアップの起動と使用	225

1 本製品の仕様	232
2 各インターフェースの仕様	243
3 技術基準適合について	247
4 無線 LAN について	259
5 Bluetooth について	266
さくいん	272

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っておくと便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っておくと役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポートへの参照の場合 … 〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

- *1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- *2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- *3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
または Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system
日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタANDARD 2002 を示します。

サイバーサポート

CyberSupport for TOSHIBA を示します。

無線 LAN モデル

無線 LAN カードが内蔵されているモデルを示します。

ドライブ DVD マルチドライブを示します。

 詳細について「1 章 9 ドライブ」

TV チューナ同梱モデル

TV チューナが同梱されているモデルを示します。

記載について

- ・ 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は「用語について」のモデル分けに準じて、「***モデルのみ」と注記します。
- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Bookshelf Basic は、次の書籍を基に制作されました。『新英和中辞典』第6版 (c) 研究社 1967, 1994, 1998, 『新和英中辞典』第4版 (c) 研究社 1933, 1995, 1998, 『新明解国語辞典』第5版 (c) 三省堂 1972, 1974, 1981, 1989, 1997
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ ekitanExpress Online、LaLaVoice、The 翻訳、The 翻訳インターネットは (株) 東芝の商標または登録商標です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・ Drag'n Drop はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ 駅すぱあととは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
(c) 2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ 携快電話は、ソースネクスト株式会社の登録商標です。
- ・ 時事通信社「家庭の医学」デジタル版Ⅱは、時事通信社の商標です。
- ・ MotionDV STUDIO は、松下電器産業株式会社の登録商標です。
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ @nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。
- ・ 東京電話インターネットは東京通信ネットワーク株式会社の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ ACアダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 35℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・無線 LAN モデルで、データの盗聴などの無線 LAN の使用による被害に関しては保証できません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。

参照▶ 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

DynaBookでやりたいことを探そう！



Welcome!

探しかた

- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ XXXXX
↳ アプリケーション名 ↳ 参照ページまたは参照マニュアル名



通信を楽しむ

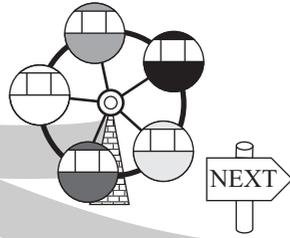
- ・ プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」 ⇒ 『まずはこれから』
- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ 『基本をマスター 2章』
- ・ ホームページを英語／日本語に翻訳したい
「The翻訳インターネット」 ⇒ 『サイバーサポート』
- ・ 海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」 ⇒ P.153
- ・ LANの設定を切り替えて使いたい
「ネットワークデバイススイッチ」 ⇒ P.130
- ・ Bluetooth機能を使いたい
「Bluetooth東芝ユーティリティ」 ⇒ P.133



メールを使う

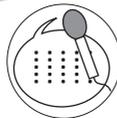
- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Outlook」 ⇒ 『サイバーサポート』
- ・ メールをしたい
「Outlook Express」「Microsoft Outlook」 ⇒ 『基本をマスター 3章』
- ・ 自動メールチェックしたい
「メール着信ユーティリティ」 ⇒ P.144





画像 / 映像を楽しむ

- デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」⇒P.103
- 映像を取り込んで編集し、DVDを作りたい
「MotionDV STUDIO」「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」⇒P.106
- テレビを観たり、録画したい
「TVfunSTUDIO*1」⇒《サイバーサポート》
- DVDを楽しみたい
「InterVideo WinDVD」⇒P.96



音声

- パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》



音楽を楽しむ

- 音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
「Windows Media Player」⇒P.80
- オリジナル音楽CDを作りたい
「Drag'n Drop CD」⇒P.89

*1 TV チューナ同梱モデルのみ



文書/表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい
「Microsoft Word」⇒《サイバーサポート》
- ・表やグラフを作りたい
「Microsoft Excel」⇒《サイバーサポート》



便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい
「Acrobat Reader」⇒《サイバーサポート》
- ・地図で場所を調べたい
「プロアトラスW for TOSHIBA」⇒《サイバーサポート》
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
「駅すばあと」「ekitanExpress Online」⇒《サイバーサポート》
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい
「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》
- ・国語/英和/和英辞典を使いたい
「Microsoft Bookshelf Basic」⇒《サイバーサポート》
- ・医学辞典を使いたい
「時事通信社「家庭の医学」デジタル版Ⅱ」⇒《サイバーサポート》
- ・携帯電話を快適に使いたい
「携快電話7」「Outlook plus！」⇒《サイバーサポート》





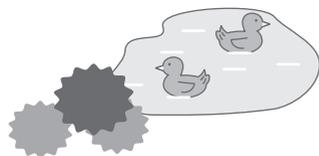
パソコンを守る

- ・ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security」⇒『困ったときは 2章』
- ・CD/DVDにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・パソコンの状態をチェックしたい
パソコンの基本情報を知りたい
「東芝PC 診断ツール」⇒『困ったときは1章』
- ・ハードウェアの設定を変えたい
「東芝 HW セットアップ」⇒P.225
- ・ワンタッチボタンの設定を変えたい
「東芝コントロール」⇒P.28
- ・キー操作でアプリケーションを起動したい
「Fn-esse」⇒《サイバーサポート》
- ・バッテリー駆動のときの省電力設定をしたい
「東芝省電力ユーティリティ」⇒P.206
- ・アイコンやメニューを大きくしたい
「Liquid View」⇒《サイバーサポート》



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

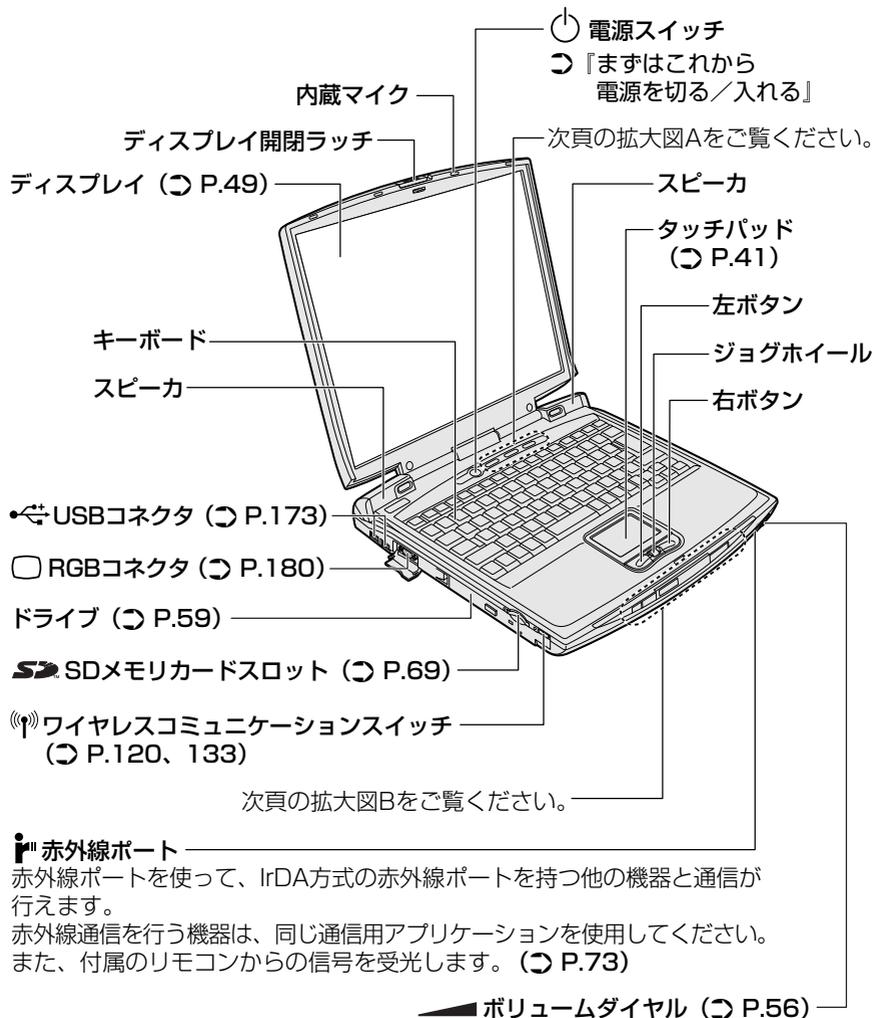
また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

1	各部の名前	18
2	システムインジケータ	23
3	モードパネルと各ボタン	24
4	キーボード	34
5	タッチパッド	41
6	ディスプレイ	49
7	ハードディスクドライブ	55
8	サウンド機能	56
9	ドライブ	59
10	SDメモ리카ード	69
11	リモコン	73
12	セキュリティロック	78

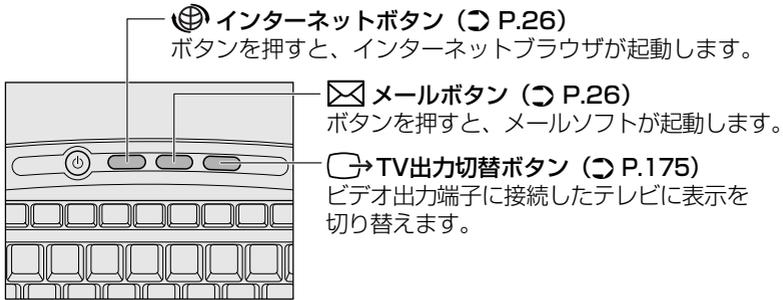
1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明については、各参照先を確認してください。

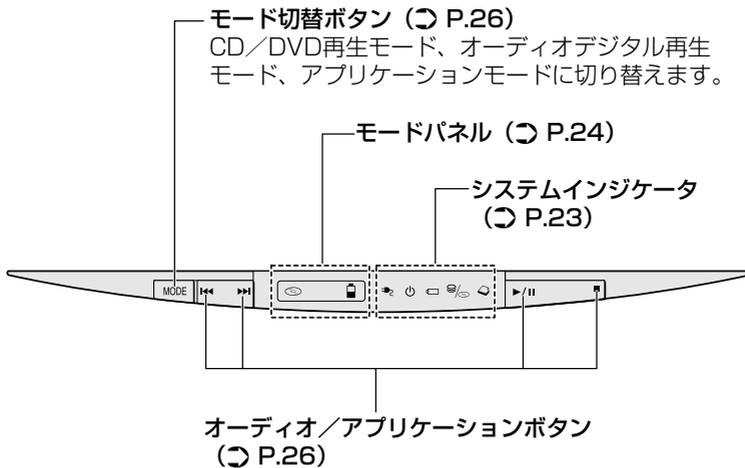
1 前面図



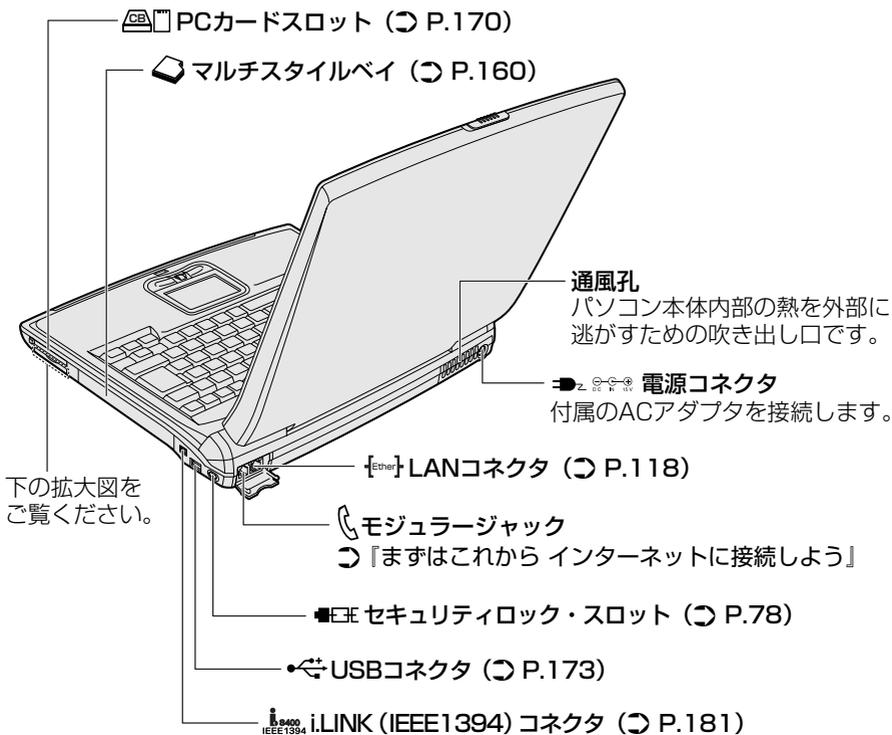
【拡大図 A】



【拡大図 B】

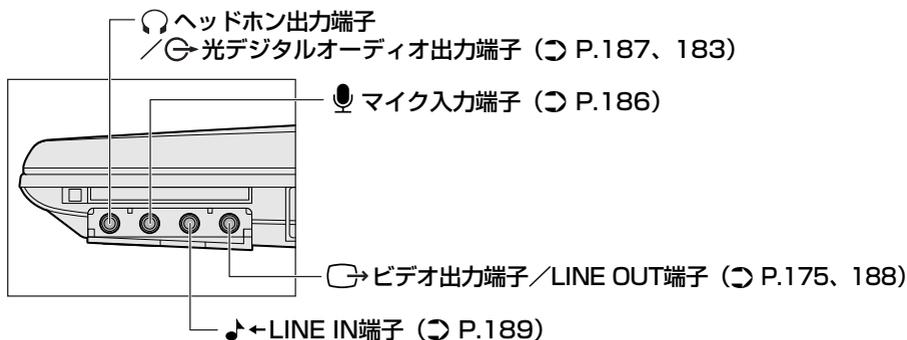


2 背面図

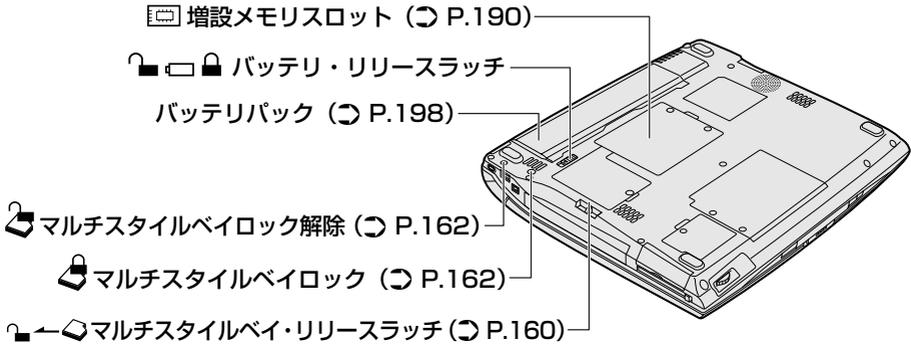


【拡大図】

コネクタカバーを開くと、次のコネクタがあります。



3 裏面図



【電源コードとACアダプタの仕様について】

電源コードの仕様

本製品に同梱されている電源コードは、日本（100V）、アメリカ合衆国・カナダ（125V）の法令・安全基準に適合しています。その他の国・地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを現地で購入のうえ、お使いください。

日本では必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

*取得規格は、アメリカ合衆国：UL規格、カナダ：CSA、日本：電気用品安全法です。

ACアダプタの仕様

本製品に同梱されているACアダプタは、海外でも使用できます。

ACアダプタの仕様は次のとおりです。

入力：AC100V～240V、1.2A～0.6A、50/60Hz

出力：15V、5A

⚠ 警告

- 必ず、本製品付属のACアダプタを使用してください。本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や（+）（-）の極性が異なっていることがあるため、過熱・火災・破裂のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず『まずはこれから』に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、ACアダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

注意

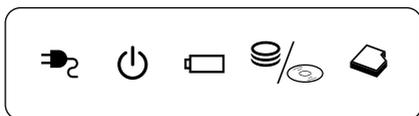
- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5 ~ 35℃、湿度 20 ~ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所 / 非常に高温または低温になる場所 / 急激な温度変化のある場所 (結露を防ぐため) / 強い磁気を帯びた場所 (スピーカなどの近く) / ホコリの多い場所 / 振動の激しい場所 / 薬品の充満している場所 / 薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



【システムインジケータ】

	DC IN LED	電源コードの接続  参照 『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態  参照 『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリーの状態  参照 P.199
	HDD/CD-ROM LED	内蔵のハードディスクドライブまたはドライブにアクセスしている  参照 P.55、59
	マルチスタイルベイ LED	マルチスタイルベイに取り付けられている機器にアクセスしている  参照 『マルチスタイルベイ機器に付属の説明書』

3 モードパネルと各ボタン

モードパネルの表示と、ワンタッチボタンやオーディオ／アプリケーションボタンについて説明します。

1 モードパネル

モードパネルは、パソコンの状態をアイコンで表示したり、時計、新着メール数などを文字列で表示したりできます。



1 モードパネルの点灯

モードパネルは、次のときに、青色に点灯します。

- 電源スイッチを押したとき
- モード切替ボタン、オーディオ／アプリケーションボタンを操作したとき

パソコン本体の電源が入っているときは、常に点灯する設定もできます。

参照▶ 詳細について 「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

2 モードパネルに表示されるアイコン

モードパネルに表示されるアイコンの表示状況によって、パソコン本体がどのような動作をしているか知ることができます。

次のアイコンはパソコン本体の動作状況を表しています。

	CD/DVD 再生アイコン	CD/DVD 再生モード 参照 ▶ P.27、82、83、97
	オーディオデジタル再生アイコン	オーディオデジタル再生モード 参照 ▶ P.27、85
	アプリケーション起動アイコン	アプリケーションモード 参照 ▶ P.27
	オーディオ／アプリケーションボタンロック機能アイコン	オーディオ／アプリケーションボタンがロックされている 参照 ▶ P.27
	バッテリー残量アイコン	バッテリーの状態 参照 ▶ P.200

3 モードパネルに表示される文字列

モードパネルには、半角のカタカナと英数字の文字列が表示できます。表示される内容は次のとおりです。

モードパネルの表示	内容
時計	パソコンが次の状態のときに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき
新着メール数	パソコンが次の状態のときに新着メール数が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っていて、メールアプリケーションを起動していないとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき
登録した文字列	アプリケーションを起動していないときに表示される文字列です。 パソコンが次の状態のときに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき 「東芝コントロール」であらかじめ半角 32 文字以内のカタカナと英数字の文字列を登録できます。
メッセージ	システムのメッセージやアプリケーションのメッセージが表示されます。例えば、電源を入れたときに、「Welcome」と表示されます。パソコンの電源が入っているときに表示されます。

 文字列の登録について「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

2) ワンタッチボタン

本製品には、ワンタッチボタンがあります。

TV出力切替ボタンは、ビデオ出力端子に接続したテレビに表示を切り替えることができます。

▶ 参照 ▶ テレビへの表示について 「4章 6 テレビを接続する」

次の2つの各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Microsoft Outlook

【パソコン本体の電源が入っていないとき】

電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

【スタンバイ状態／休止状態のとき】

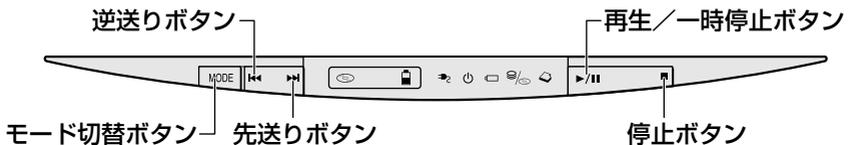
スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

▶ 参照 ▶ アプリケーションの設定について
「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

3) オーディオ／アプリケーションボタン

モード切替ボタンで、CD/DVD再生モード ()、オーディオデジタル再生モード ()、アプリケーションモード () にしているときに、オーディオ／アプリケーションボタンで操作できます。

ただし、オーディオ／アプリケーションボタンで操作するアプリケーションとモードの状態 (モードパネルのアイコン表示) が対応していないと操作できません。



モード切替ボタンを押すごとに、モードが切り替わります。
モードの状態は、モードパネルにアイコンで表示されます。

- CD / DVD 再生モード ()

CD / DVD を再生できます。

参照▶ 詳細について「2章 1 音楽 CD を聴く」「2章 5 DVD-Video を観る」

- オーディオデジタル再生モード ()

音楽ファイルを再生できます。

参照▶ 詳細について「2章 2 音楽ファイルを聴く」

- アプリケーションモード ()

登録したアプリケーションを起動できます。

参照▶ 詳細について「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

各モード時に、オーディオ/アプリケーションボタンはそれぞれ次の機能を持っています。

ボタン	CD/DVD 再生モード ()	オーディオデジタル再生モード ()	アプリケーションモード ()
	逆送りボタン		アプリケーションボタン 1
	先送りボタン		アプリケーションボタン 2
	再生/一時停止ボタン		アプリケーションボタン 3
	停止ボタン		アプリケーションボタン 4

オーディオ/アプリケーションボタンロック機能

本製品を持ち運ぶ場合、誤ってオーディオ/アプリケーションボタンが押されると、アプリケーションが起動してしまう可能性があります。

そこで、オーディオ/アプリケーションボタンを一時的に機能しないようにする「オーディオ/アプリケーションボタンロック機能」があります。

なお、オーディオ/アプリケーションボタンロック機能はパソコンの電源が切れている場合のみ使用できます。

オーディオ/アプリケーションボタンロック機能を有効にするには、次のように操作します。

1 モード切替ボタンを4秒以上押す

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能を解除する場合も、同様にモード切替ボタンを4秒以上押してください。

また、電源スイッチを押してパソコンの電源を入れると、オーディオ／アプリケーションボタンロック機能は解除されます。

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能の使用中は、モードパネルにオーディオ／アプリケーションボタンロック機能アイコン () が表示されます。

4 東芝コントロールで設定する

「東芝コントロール」でモードパネルやボタンの設定ができます。設定できる内容は、次のとおりです。

- アプリケーションが起動されていないときに、モードパネルに表示される文字列
- 新着メールチェック機能を使用するときのモードパネルの表示
- インターネットボタン、メールボタンを使用して起動するアプリケーションの変更
- モード切替ボタンを使用して起動するアプリケーションやドライブの設定
- 同梱のリモコンでの操作の有効／無効

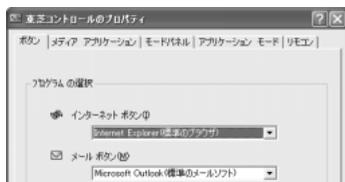
1 起動方法

1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする

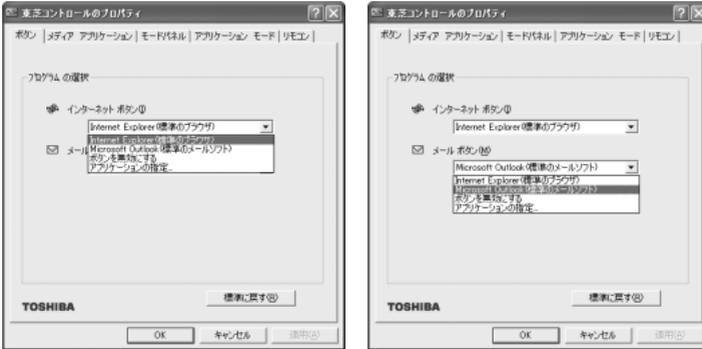
2 [ 東芝コントロール] をクリックする

2 [ボタン]タブ

インターネットボタン、メールボタンを押したときに起動するアプリケーションを変更できます。



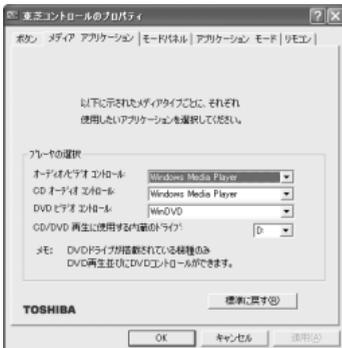
1 変更するボタン名の下の変換ボタンをクリックする アプリケーションの一覧が表示されます。



2 アプリケーションを選択して、[OK] ボタンをクリックする

3 [メディアアプリケーション]タブ

モード切替ボタンで、CD / DVD 再生モード (🎧)、オーディオデジタル再生モード (🎵) を選択したときに起動するアプリケーションで設定します。



DVD マルチドライブ (別売り) をマルチスタイルベイに取り付けると、CD / DVD 再生に使用するドライブを選択することができます。

詳しくは『DVD マルチドライブ取扱説明書』を確認してください。

なお、この機能は市販の外付型ドライブはサポートしておりません。

4 【モードパネル】タブ

モードパネルの表示を設定できます。



1 【表示モード】で、モードパネルに表示したい内容を選択する

次の設定を選択できます。[オーナストリング表示] を選択する場合は、登録したい文字列を入力してください。

時計表示 (24H)	時計を表示します (24 時間)。
時計表示 (12H)	時計を表示します (12 時間、AM / PM)。
オーナストリング表示	登録した文字列を表示します。 表示できる文字列は半角のみ、32 文字以内のカタカナおよび英数字です。

2 【OK】 ボタンをクリックする

時計表示とオーナストリング表示では、オーナストリング表示が優先されません。

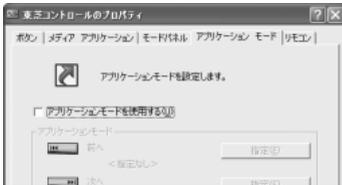
[バックライトを常時点灯する] をチェックすると、パソコン本体の電源が入っているときはモードパネルのバックライトが常に点灯します。

[新着メール情報を表示する] をチェックすると、新着メールチェックを行い、新着メールがある場合はモードパネルに新着メール数が表示されます。
[新着メール情報を表示する] をチェックして [設定] ボタンをクリックすると、[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。

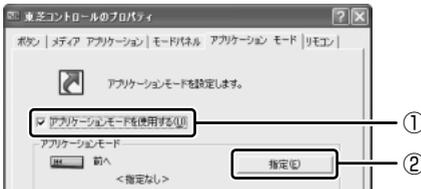
5 [アプリケーションモード]タブ

モード切替ボタンでアプリケーションモード () を使用するかどうかを設定します。また、アプリケーションモード () 時に起動するアプリケーションを設定できます。

ここでは、アプリケーションボタン1に「ペイント」を設定する例で変更方法を説明します。



- 1 [アプリケーションモードを使用する] をチェックし①、[アプリケーションモード] で設定を行うアプリケーションボタンの [指定] ボタンをクリックする②



[指定] 画面が表示されます。

- 2 [参照] ボタンをクリックする
[ファイルを開く] 画面が表示されます。
- 3 [アクセサリ] をダブルクリックする



[アクセサリ] フォルダの内容が表示されます。

4 [ペイント] をダブルクリックする

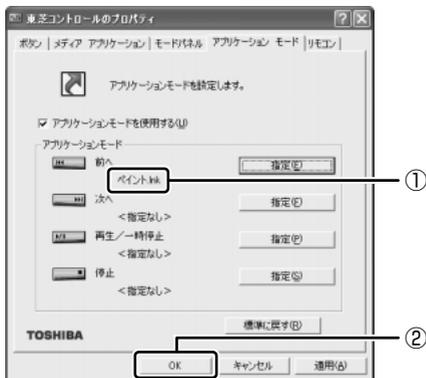


[指定] 画面に戻ります。

5 [アプリケーション名] にペイントが設定されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。

6 設定したアプリケーションボタンの下に「ペイント.lnk」と表示されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



アプリケーションボタンにペイントが設定されます。

購入時の設定に戻す場合は、[東芝コントロールのプロパティ] 画面で [標準に戻す] ボタンをクリックしてください。

6 [リモコン]タブ

本製品に同梱のリモコンでの操作を無効／有効にすることができます。



- 1 無効にするときは [リモコンを使用する] のチェックをはずし、有効にするときはチェックをする
- 2 [OK] ボタンをクリックする

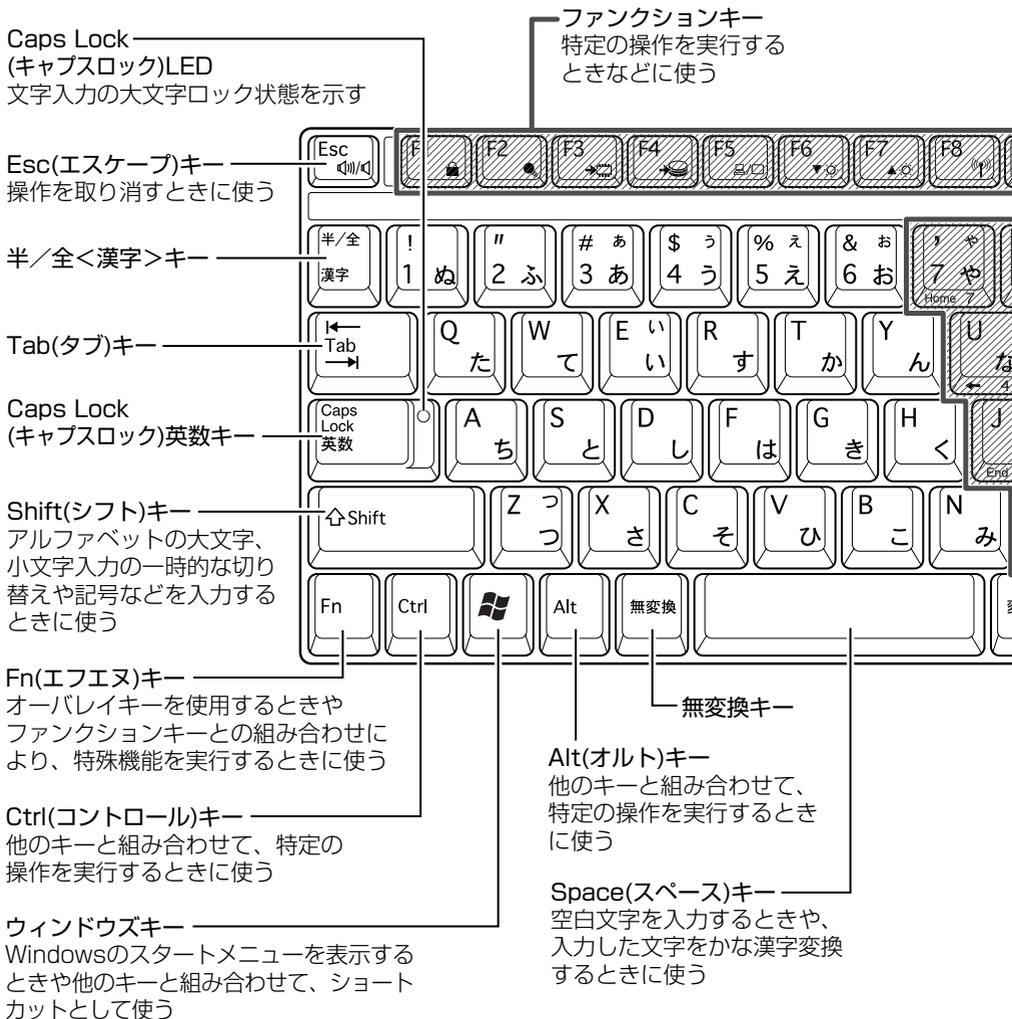
参照 → リモコンについて「本章 11 リモコン」

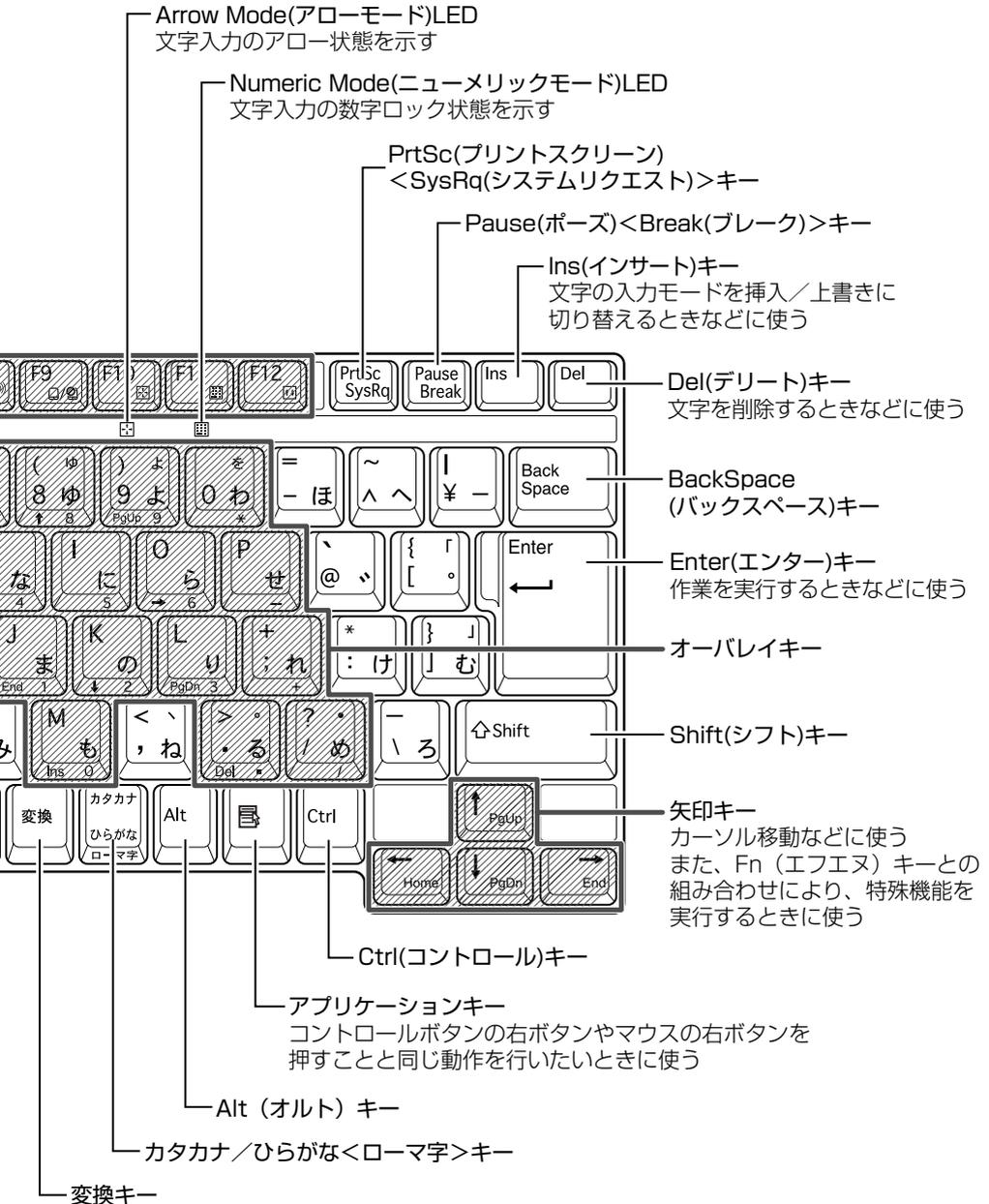
参照 → 東芝コントロールの問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。その場合、他の2つは解除して消灯してください。

【キーシフトインジケータ】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力できます。
Arrow Mode LED	(Fn) + (F10)	アロー状態 オーバーレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。
Numeric Mode LED	(Fn) + (F11)	数字ロック状態 オーバーレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう1度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn)+(Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度(Fn)+(Esc)キーを押します。
(Fn)+(F1) 〈インスタントセキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブで、[パスワードによる保護]または[再開時によろこそ画面に戻る]をチェック）しておく、セキュリティを強化できます。解除するには、次の操作を行ってください。 ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作する ② ユーザが複数の場合はユーザ名をクリックする ③ パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す パスワードによる保護を設定していない場合は、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると解除できます。
(Fn)+(F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn)+(F2)キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F2)キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
(Fn)+(F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	スタンバイ機能が実行されます。 参照▶ 詳細について「5章 3-① スタンバイ」
(Fn)+(F4) 〈休止状態の実行〉	休止状態が実行されます。 参照▶ 詳細について「5章 3-② 休止状態」
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照▶ 詳細について「4章 6 テレビを接続する」

キー	内容
(Fn)+(F6) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F7) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F8) 〈無線通信機能の切り替え〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドしている場合、(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。 *無線LANモデルのみサポートしています。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッドオン/オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度(Fn)+(F9)キーを押します。 参照▶ 詳細について 「本章 5-4 タッチパッドを無効/有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます (アロー状態)。 アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます (数字ロック状態)。 数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション (Microsoft Excel など) によっては機能が異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。

キー	内容
Fn + ↑ <PgUp (ページアップ)>	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 ↑ キーを押すと、前のページに移動できます。
Fn + ↓ <PgDn (ページダウン)>	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 ↓ キーを押すと、次のページに移動できます。
Fn + ← <Home (ホーム)>	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 ← キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
Fn + → <End (エンド)>	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 → キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

【**Windows**キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
Windows + R	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
Windows + M	すべてをアイコン化する
Shift + Windows + M	すべてのアイコン化を元に戻す
Windows + F1	『ヘルプとサポート』を起動する
Windows + E	[マイコンピュータ] 画面を表示する
Windows + F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl + Windows + F	他のコンピュータを検索する
Windows + Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
Windows + Break	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	Ctrl + Alt + Del	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PrtSc	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	Alt + PrtSc	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

5 タッチパッド

タッチパッドを、使いやすく設定できます。

1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、[マウスのプロパティ] で行います。

1 [マウスのプロパティ] の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



- 3 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする
各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2) タッピング機能

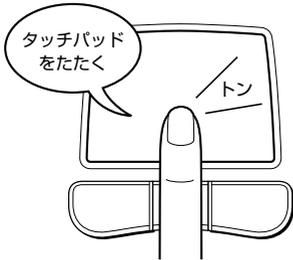
タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

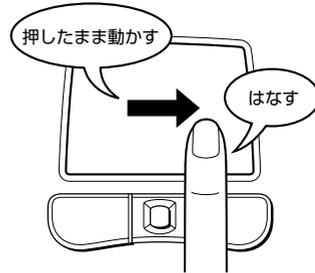
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[タッチ] タブでできます。[タッチ] タブで設定できる機能は、次のようになっています。



タップ	<p>目的に合わせて項目をチェックする（<input checked="" type="checkbox"/>）と、タッピング機能を使用できます。</p> <p>[タップでクリック] を選ぶと、タッピングでクリックとダブルクリックができます。[タップでドラッグ] を選ぶと、タッピングでドラッグすることができます。</p> <p>[ドラッグロック] を選ぶと、タッピングでドラッグしたときに、指を離してもドラッグ状態を保つことができます。</p>
タッチ感度	<p>タッチパッドが反応する感度をスライダーバーで調節できます。</p>
パームチェック	<p>キーボードから文字を入力しているときにあやまってタッチパッドに触れてしまい、意図しない場所にポインタが移動したりクリックしてしまうことを防ぎます。</p>
このデバイスを無効にする	<p>選択したデバイスを無効にします。</p>

参照 → 『基本をマスター 1章 1-① タッチパッド』

3 エッジモーション機能を使う

[エッジモーション] タブで設定します。

エッジモーション機能を設定すると、ポインタを動かしている途中で指がタッチパッドの端にきてしまったとき、タッチパッドから指を離すまで同じ方向にポインタを動かし続けることができます。

目的に合わせて項目をチェック（）してください。



ドラッグ時	ドラッグしているときにエッジモーション機能を使用できます。
常時	常にエッジモーション機能を使用できます。
スクロール時	スクロール時にエッジモーション機能を使用できます。
触圧でエッジモーション速度を制御	<p>チェックする（<input checked="" type="checkbox"/>）と、タッチパッドを押す指の強さに反応して、エッジモーション機能でポインタが動き続ける速度が速くなります。</p> <p>速度を一定に設定したい場合はチェックをはずし、スライダーバーで速度を調節してください。</p>

4 スクロール機能を使う

[スクロール] タブで設定します。

タッチパッドの右端、下端に合わせて上下または左右に動かしたとき、スクロール機能を使用できます。



選択したアイテムをスクロール	選択した画面やスクロールバーをスクロールできます。
ポインタで示したアイテムをスクロール	ポインタで示した画面やスクロールバーをスクロールできます。
惰性を利用	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、スクロール中にタッチパッドから指を離しても、スクロールし続けることができます。スクロールを止めるには、指をタッチパッドの上に置いてください。
練習	クリックすると、タッチパッドの練習ができます。
スクロール速度	スクロールする速度をスライダバーで調節できます。

5 タップゾーン機能を使う

[タップゾーン] タブで設定します。

タッチパッドの右上、右下、左上、左下をタッピングしたときの動作を設定できます。



[タップゾーン機能を使用する] をチェックする () と、タップゾーン機能が使用できます。[コーナータップ時の動作を選択] の、右上、右下、左上、左下のメニュー欄で ボタンをクリックして、表示される一覧から設定したい機能を選択してください。

3 その他の設定

【マウスのプロパティ】ではタッピングだけではなく、ボタンなどの設定もできます。

1 ポインタや通知領域の設定を変更する

【その他の機能】タブで設定します。



ウィンドウの境界線で停止	ポインタがアクティブウィンドウの内側だけで動くように設定できます。一度指を離すと、ウィンドウの外側へ移動できます。
スローモーションキー	指定したキーを押しながらポインタを動かすと、ポインタの速度が遅くなるように設定できます。
ポインタ制約キー	ポインタを水平方向または垂直方向にのみ動くように設定できます。
トレイアイコン	通知領域に表示するアイコンに、タッチパッド上の指の動きを表示するかどうかを選択できます。
ポインタリフレッシュ速度	ポインタの動作の滑らかさを設定できます。
Selective Suspend	チェックすると、タッチパッドを一定時間使用しないと自動的に省電力モードに移行します。

2 ボタンの設定を変更する

[ボタンの動作] タブで設定します。

タッチパッドの右ボタン、左ボタン、ジョグホイールを押したときの動作を変更できます。



ボタンの動作を選択

[右ボタン]、[中央ボタンの動作]、[左ボタン] のボタンをクリックして、表示される一覧から設定したい動作を選択します。

役立つ 操作集

ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。



4 タッチパッドを無効／有効にするには

市販のマウスを接続し、パソコンの操作をマウスで行う場合などタッチパッドを使わないときは、タッチパッド機能を無効にすることができます。[タッチパッド ON/OFF] タブで、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。



【タッチパッドのON/OFF】

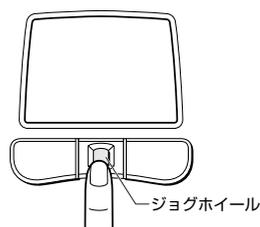
[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

タッチパッドの有効/無効は、(Fn)+(F9)キーでも切り替えることができます。

役立つ 操作集

オートスクロール

ジョグホイールを押すと、ポインタが  や  に変わります。スクロールしたい方向にポインタを少し動かすと、ポインタの形がスクロールしたい方向の矢印に変わり、自動的に画面がスクロールされます。もう1度ジョグホイールを押すと、通常の状態に戻ります。アプリケーションによっては対応していない場合もあります。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

6 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイが内蔵されています。解像度は UXGA モデルが 1600 × 1200 ドット、SXGA +モデルが 1400 × 1050 ドットです。ドットは点の数を表します。

テレビと同じようにブラウン管を発光させて表示する、CRT ディスプレイを接続して使用することもできます。

▶ 参照 → CRT ディスプレイの接続について
[4 章 7 CRT ディスプレイを接続する]

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1) ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

内部液晶ディスプレイでは、設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

【 UXGA (1600 × 1200) モデルの場合 】

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	1,677 万色
1600 × 1200 ドット	1,677 万色
1280 × 1024 ドット	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

1920 × 1440 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

【 SXGA + (1400 × 1050) モデルの場合 】

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	1,677 万色
1600 × 1200 ドット	1,677 万色
1400 × 1050 ドット	1,677 万色
1280 × 1024 ドット	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

1600 × 1200 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

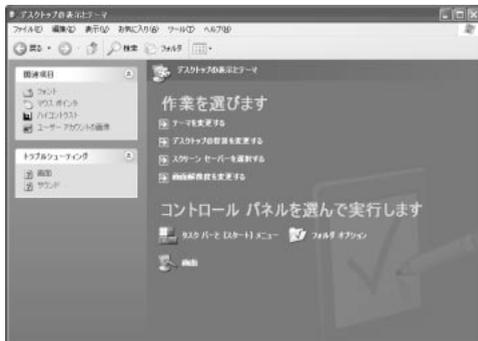
1,677 万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1ピクセル (画像表示の単位) では表現できない色 (輝度) の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



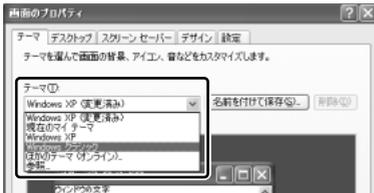
デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 2 [テーマ] タブの [テーマ] で ▼ ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する



画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。

- 3 [OK] ボタンをクリックする

壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windows に用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [デスクトップの背景を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 2 [デスクトップ] タブの [背景] で、目的の画像を選択する



パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

画面は [草原] を選択する場合の表示例です。

- 指定できる画像ファイル

bmp、gif、jpeg、html ファイルなどが使用できます。

- **画像の位置を指定する**

画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。

[表示位置] で [中央に表示]、[並べて表示]、[拡大して表示] から選択します。

3 [OK] ボタンをクリックする

スクリーンセーバを使う

好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [スクリーンセーバを選択する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [スクリーンセーバ] タブの [スクリーンセーバ] で ボタンをクリックし、目的のスクリーンセーバを選択する



画面は [Windows XP] を選択する場合の表示例です。

スクリーンセーバによっては、パソコンの絵の中にプレビューが表示されます。[プレビュー] ボタンをクリックすると、画面全体にスクリーンセーバのプレビューが表示されます。プレビューを中止したい場合は、タッチパッドを操作してください。

- [待ち時間] の時間 (分単位) を設定する

例えば、[5] に設定すると、パソコンの電源を入れた状態で5分間、タッチパッドを操作せず、キーボードから入力を行わなかったとき、スクリーンセーバが表示されます。

- [パスワードによる保護]

チェックすると、スクリーンセーバ解除時にパスワードの入力画面を表示します。

3 [OK] ボタンをクリックする

動作中のスクリーンセーバを解除するには、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドの操作を行ってください。

[パスワードによる保護] をチェックしている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。

Windows のログオンパスワードを入力してください。

解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。CRT ディスプレイを接続した場合など、購入時の設定では見にくい場合は、次の手順で変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面解像度を変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



- 3 [OK] ボタンをクリックする

ウィンドウの色を変える

ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 2 [デザイン] タブの [配色] で、 ボタンをクリックし、配色を選択する



プレビューが表示されます。
画面は、[シルバー] を選択する場合の表示例です。

- 3 [OK] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。有償にて交換いたします。

7 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。マルチスタイルベイに60GB ハードディスクユニット（別売り）を取り付けたり、PCカードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

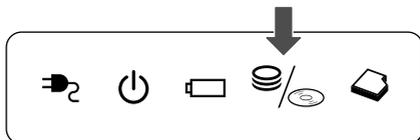
参照 → 60GB ハードディスクユニットについて
『60GB ハードディスクユニット取扱説明書』

お願い 操作にあたって

- HDD/CD-ROM  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD / DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD / DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、磁気プレスレットなど強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

1) ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、HDD/CD-ROM  LED が点灯します。



60GB ハードディスクユニット、PC カードタイプや i.LINK (IEEE1394) 対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、HDD/CD-ROM  LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

8 サウンド機能

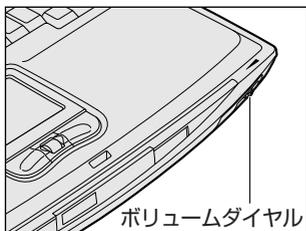
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、またはWindowsの「マスタ音量」で調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。



お願い

- 使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起すことがあります。
- ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで音が増幅し、発生する高く大きな音のことです。
- ハウリングを起こした場合は音量を調整してください。

2 マスタ音量で調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする [マスタ音量] 画面が表示されます。

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調整できます。

マスタ音量	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (Windows Media Player の場合)、DVD-Video など
CD オーディオ	音楽 CD (Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] を確認する
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする

6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする

[マイク] : マイクから録音するとき

7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する

同時に2つのデバイスを選択することはできません。

録音したい音楽／音声が「マスタ音量」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

2 光デジタルオーディオ出力端子経由で録音するとき

光デジタルオーディオ出力端子経由で録音する場合は、あらかじめボリュームダイヤル、または「マスタ音量」の [WAVE] など、各ソース用のコントロールで再生している音量を調節しておきます。

メモ

- 音量を最小にしたり、ミュート(消音)にすると、光データは出力されません。
- ボリュームダイヤルでは、本体のスピーカからの音量のみを調節できます。
- デジタル出力が「オフ」に設定されていると、光データは出力されません。
[コントロールパネル] → [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] → [ヤマハ AC-XG] をクリックし、[デジタル出力] タブで「デジタル出力」が「オフ」になっていないことを確認してください。

 参照 → マスタ音量について「本節 ① スピーカの音量を調整する」

9 ドライブ

本製品には、DVD マルチドライブが 1 台内蔵されています。DVD マルチドライブは DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。

CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。

1 CD / DVD について

CD、DVD について説明します。

1 使用できるCD

読み出しできる CD は、次の種類です。

- 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのもので使用できます。
- CD エクストラ
記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は次の種類です。

- CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。CD-R の書き込み速度は最大 16 倍速です。16 倍速で書き込むためには 16 倍速の書き込みに対応した CD-R メディアを使用してください。

- CD-RW

CD-RW の書き込み速度は使用するメディアによって異なります。マルチスピード CD-RW メディアの場合、最大 4 倍速が使用できます。High-Speed 対応メディアを使用した場合は最大 8 倍速です。なお、Ultra Speed CD-RW 対応メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

CD-RW (マルチスピード、High-Speed)

：三菱化学 (株)、(株) リコー

CD-R : 太陽誘電 (株)、三井化学 (株)、三菱化学 (株)、(株) リコー、日立マクセル (株)

これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

▶ 参照 エラーチェック《サイバーサポート》

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

2 使用できるDVD

読み出しできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM ●DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）
- DVD-R ●DVD-RW ●DVD-RAM

書き込みできる DVD は次の種類です。

- DVD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RAM
DVD-RAM は、DVD-RAM Ver2.0 または 2.1 規格に準拠したメディアを使用してください。

DVD-RAM に書き込むにはドライバのインストールが必要です。



参照 ドライバのインストール

「本節 ②-1 ドライバとフォーマットユーティリティのインストール」

【 DVD-RAM の種類 】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAM の種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

* 1 一部の家庭用 DVD ビデオレコーダでは再生できない場合があります。

* 2 2.6GB、5.2GB のディスクは書き込みできません。

お願い DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rについて

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込む際には、次のメーカーのDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用することを推奨します。
DVD-RAM : 松下電器産業 (株)
DVD-RW : 日本ビクター (株)、TDK (株)
DVD-R : 松下電器産業 (株)、太陽誘電 (株)、パイオニア (株)

これらのメーカー以外のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- DVD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RWに書き込んだデータの一部を削除することはできません。書き込まれたデータの変更は、まずすべてのデータを消去し、改めて必要なデータだけを再書き込みする必要があります。
- DVD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、必ずしもメディアに記載された容量分のデータを書き込むことはできません。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

 参照 エラーチェック《サイバーサポート》

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rにデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

メモ

- 市販のDVD-RW、DVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

4 使用できるメディアと対応するアプリケーション

本製品のドライブで使用できるメディアと、本製品に付属のアプリケーションで書き込みできるメディアとVideoフォーマットは次のとおりです。

○：使用できる ×：使用できない

メディア	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○	○	○	×	×
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能*1	1回	繰り返し書換可能*1	繰り返し書換可能*1	×	×
Drag'n Drop CD *2	○	○	○	○	×	×	×
DVDfunSTUDIO *2	×	×	○	○	×	×	×
DVD-MovieAlbum *2	×	×	×	×	○	×	×
DVD-Video *3	×	×	○	○	×	×	×
DVD-VR (VideoRecording形式) *3	×	×	×	×	○	×	×

* 1：実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

* 2：付属のアプリケーションです。

* 3：Videoフォーマットです。

パソコンで作成した文書データなどのファイルをDVD-RAMに書き込む場合は、[マイコンピュータ]で目的のファイルやフォルダをDVDマルチドライブにコピーしてください。

▶ 参照 ファイルやフォルダのコピー

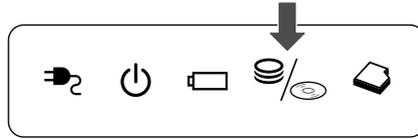
『基本をマスター 1章 5-② ファイルやフォルダをコピーする』

なお、新品のDVD-RAMは、使用前にフォーマットが必要です。

▶ 参照 フォーマット「本節 ② DVD-RAMを使うときは」

5 ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、HDD/CD-ROM  LEDが点灯します。



2 DVD-RAM を使うときは

ここでは、DVD-RAMに書き込みをする前に必要な操作について説明します。

1 ドライバとフォーマットユーティリティのインストール

「DVD-RAM Driver Software」をインストールすると、次のことが行えるようになります。

- UDF2.0形式でフォーマットされたDVD-RAMの読み出しと書き込み
- UDF2.0 / UDF1.5形式でのDVD-RAMのフォーマット
- DVD-RAMのライトプロテクトの設定／解除

初めてDVD-RAMに書き込みをするとき、または初めてDVD-RAMをフォーマットするとき、必ずインストールしてください。

1 「MotionDV STUDIO」と記載されているCDをセットする

 参照 CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「DVD-RAM Driver Software」をインストールする

インストールの途中で「ReadmeXP -メモ帳」画面が表示されます。DVD-RAMドライバの制限事項が記載されていますので内容を確認してください。

3 「閉じる」ボタンをクリックする

4 「InstallShield Wizardの完了」画面で「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」が選択されていることを確認し、「完了」ボタンをクリックする

再起動し、「RAMASST」画面が表示されます。

5 【はい】 ボタンをクリックする



2 フォーマットとは

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細はPDFマニュアルを確認してください。

参照 → 「本項 PDF マニュアルの起動方法」

お願い

フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

購入時に選択できるファイルシステムは「FAT32」のみです。「DVD-RAM Driver Software」をインストールすると「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」が選択できるようになります。

【UDF2.0】

DVD-VR形式に対応したファイルシステムです。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性があります。

【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP / 2000 *¹ がインストールされたパソコン*² でもデータを読み出すことができます。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

*1 Windows 2000 ... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System 日本語版

*2 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応したDVD ドライブが搭載されている必要があります。

【FAT32】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP / Me *¹ / 98 *² がインストールされたパソコン*³ でもデータを読み出すことができます。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

*1 Windows Me Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System 日本語版

*2 Windows 98 Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System 日本語版

*3 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応したDVD ドライブが搭載されている必要があります。

メモ

「DVD-MovieAlbum」で映像データを書き込む際には、DVD-VR形式で書き込まれるため、「UDF2.0」のDVD-RAMを使用します。

3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。「DVD-RAM Driver Software」をインストールしてから次の操作を行ってください。

1 フォーマットするDVD-RAMをセットする

 参照 DVD-RAMのセット [基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD]

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

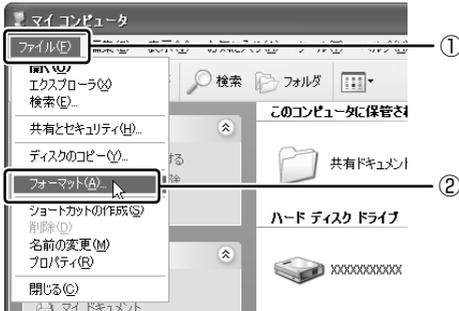
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

3 DVD-RAM ドライブ (D:) をクリックする

[DVD-RAM ドライブ (D:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



【フォーマット DVD-RAM (D:)】画面が表示されます。

5 【ドライブ】と【フォーマット種別】を選択する

映像を書き込み、家庭用 DVD ビデオレコーダで再生するための DVD-RAM を作成する場合は、【ユニバーサル ディスク フォーマット (UDF2.0)】を選択してください。

6 【開始】 ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、【物理フォーマットを実行する】をチェックしてから、【開始】 ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、【はい】 ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットする DVD-RAM の場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、【はい】 ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他の DVD-RAM も続けてフォーマットする場合は、DVD-RAM を入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、【フォーマット DVD-RAM (D:)】画面で【閉じる】 ボタン () をクリックしてください。

PDF マニュアルの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [DVD-RAM] → [DVD-RAM ドライバー] → [DVD-RAM ディスクの使い方] をクリックする

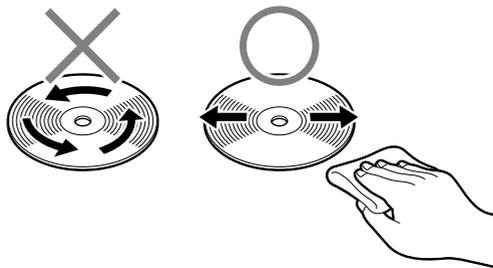
「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



10 SD メモリカード

SD メモリカードを SD メモリカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

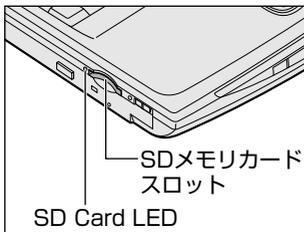
本製品の SD メモリカードスロットでは、マルチメディアカードと SDIO カードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがってすべての SD メモリカードの動作は保証できません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

1 SD メモリカードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



2) SD メモリカードのセットと取り出し

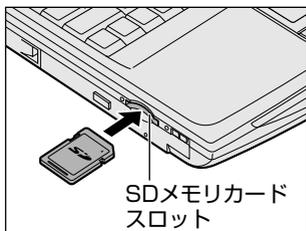
SD メモリカードをSD メモリカードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

⚠ 注意

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SDメモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
データやSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- SDメモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

- 1 SDメモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SDメモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

2 取り出し

- 1 SDメモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから「TOSHIBA SD Memory Card Drive- ドライブ (E:) を安全に取り外します」(標準値) をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、「閉じる」ボタン () をクリックする

- 2 SDメモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモ리카ードの内容を見る

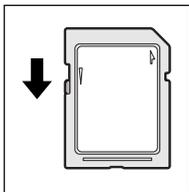
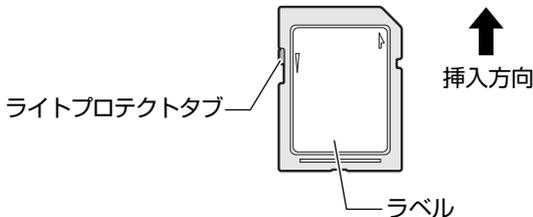
著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
[マイコンピュータ] 画面が表示されます。
- 2 [リムーバブルディスク (E:)] (標準値) をダブルクリックする
[リムーバブルディスク (E:)] (標準値) 画面が開き、セットしたSDメモ리카ードの内容が表示されます。

3 SDメモ리카ードを使う前に

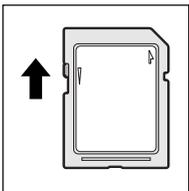
1 ライトプロテクトタブ

SDメモ리카ードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモ리카ードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモ리카ードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモ리카ードを使えるようにすることです。

新品のSDメモ리카ードは、SDメモ리카ードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、SDメモ리카ードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）でフォーマットを行ってください。

フォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

注意

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモ리카ードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。

お願い

再フォーマットを行うと、そのSDメモ리카ードに保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用したSDメモ리카ードを再フォーマットする場合は注意してください。

SDメモ리카ードの取り扱い

SDメモ리카ードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SDメモ리카ードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。

SDメモ리카ードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- SDメモ리카ードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SDメモ리카ードに付属のケースに入れてください。
- SDメモ리카ードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

11 リモコン

本製品には、リモコンが同梱されています。リモコンを使って、離れた場所からパソコンの機能の一部を操作することができます。

1) リモコンについて

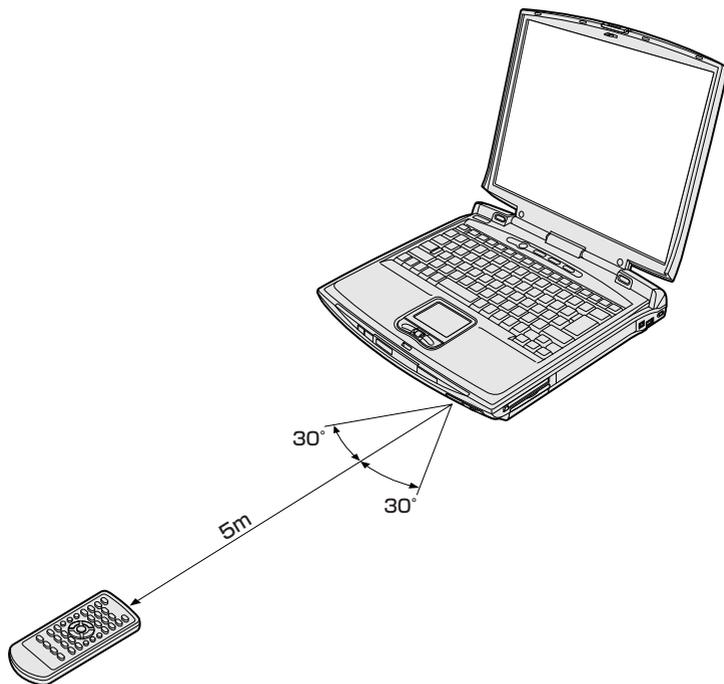
お願い 操作にあたって

- リモコンは本製品専用です。
- マルチスタイルベイ機器のなかには、リモコン操作に対応していないものもあります。

【使用範囲】

パソコン本体に向けてリモコンの操作ボタンを押します。使用範囲は、次の距離と角度を目安にしてください。

距離	赤外線受光窓正面より約 5m 以内
角度	赤外線受光窓正面より左右約 30 度以内



【使用時の注意】

使用範囲内でも、次のような場合はリモコンが誤動作したり操作できない場合があります。

- パソコン本体とリモコンの間に障害物があるとき
- 赤外線受光窓に直射日光や蛍光灯の強い光があたっているとき
- 赤外線受光窓、またはリモコンの発光部が汚れているとき
- 本製品とリモコンが複数台あるとき
- 電池が消耗してきたとき

2) 電池の取り付け／取りはずし

リモコンを使用するには、同梱の電池をセットする必要があります。

警告

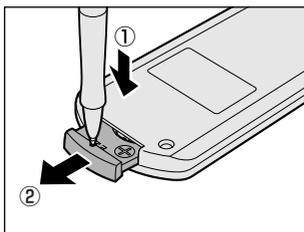
- リモコンに使用している電池は、幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意

- リモコンに使用している電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 指定以外の電池は使用しない
 - ・ 極性表示 [(+) と (-)] を間違えて挿入しない
 - ・ 充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れない
 - ・ 金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に携帯、保管しないこれらを守らないと、発熱・液もれ・破裂などにより、やけど、けがの原因となります。もし、液が皮膚や衣類についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い医師の治療を受けてください。器具に付着した場合は、液に直接触れないで拭き取ってください。

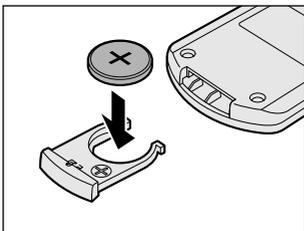
1 取り付け

1 リモコン裏側の電池カバーを引き出す



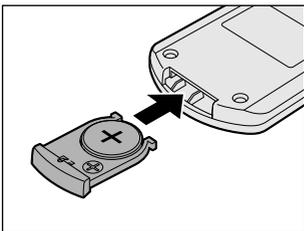
電池カバーの凹部分を先が細い丈夫なもの（丈夫なボールペンの先など）で押しながら①、引き出します②。

2 電池をセットする



+（プラス）を上にしてセットしてください。

3 電池カバーを差し込む

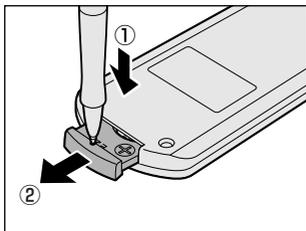


「カチッ」という音がするまで押してください。

2 取りはずし

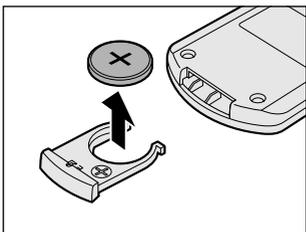
リモコンに使用している電池が消耗すると、リモコン操作ができなかったり、到達距離が短くなります。その場合は、市販のCR2025を購入のうえ、次のように電池を取りはずしてから、新しい電池を取り付けてください。

1 リモコン裏側の電池カバーを引き出す



電池カバーの凹部分を先が細い丈夫なもの（丈夫なボールペンの先など）で押しながら①、引き出します②。

2 電池を取り出す



3 リモコンの各部名称

電源ボタン

パソコン本体の電源スイッチと同じ役割をします。

出力切替ボタン (⇄ P.175)

パソコン本体のTV出力切替ボタンと同じ役割をします。

音量ボタン

▲ ボタンを押すと音量が上がります。
▼ ボタンを押すと音量が下がります。

ミュートボタン

消音になります。

矢印ボタン

キーボードの矢印キーと同じ役割をします。

決定ボタン

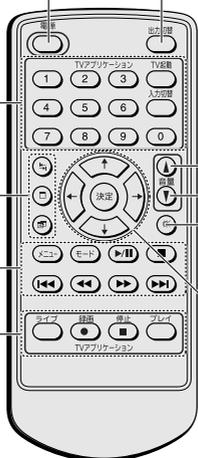
キーボードの[Enter]キーと同じ役割をします。

次頁の拡大図Aをご覧ください。

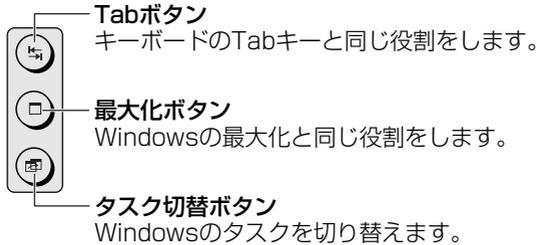
次頁の拡大図Bをご覧ください。

TVアプリケーションボタン

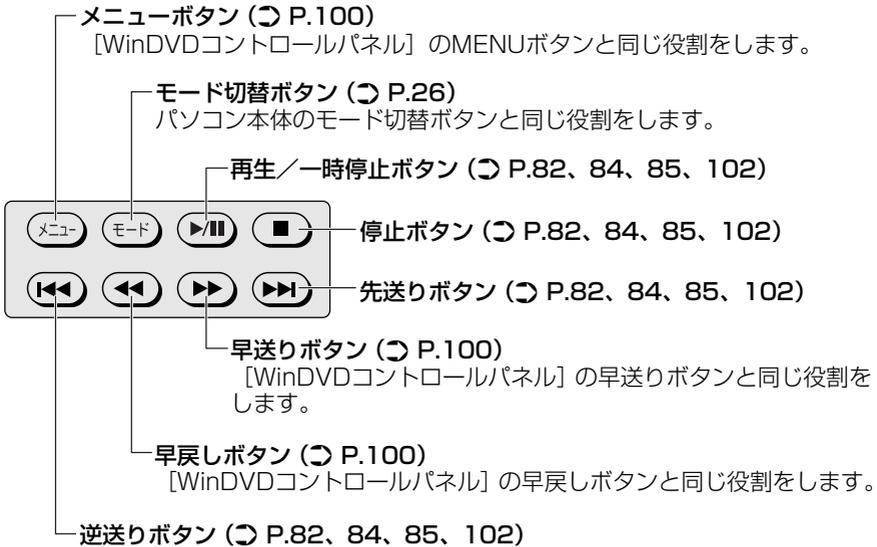
マルチスタイルペイにTVチューナを取り付けたときに使用します。
⇄ 「TVチューナ取扱説明書」



【拡大図 A】



【拡大図 B】



リモコンで操作できないように設定することもできます。

参照 → 詳細について「本章 3-4 東芝コントロールで設定する」

リモコンの取り扱いと手入れ

リモコンを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- 落としたり、衝撃を与えないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所には置かないでください。
- 水をかけたり、湿気の多いものの上に置かないでください。
- 分解しないでください。

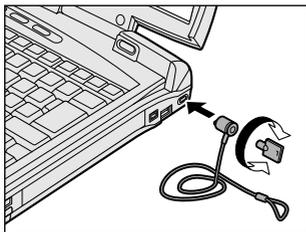
12 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



2章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それをCDに書き込んでオリジナルを作成する。写真やDVD-Videoの映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

1	音楽CDを聴く	80
2	音楽ファイルを聴く	85
3	オリジナル音楽CDを作る	89
4	オリジナルMDを作る	95
5	DVD-Videoを観る	96
6	デジタルカメラの写真を編集／整理する	103
7	映像を編集する	106

1 音楽 CD を聴く

本製品では Windows を起動している状態でも、また Windows を起動しない状態でも CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

Windows を起動して音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- Windows Media Player

1 再生方法

1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

購入時は、音楽 CD を再生するアプリケーションとして「Windows Media Player」が選択されています。

参照 ▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

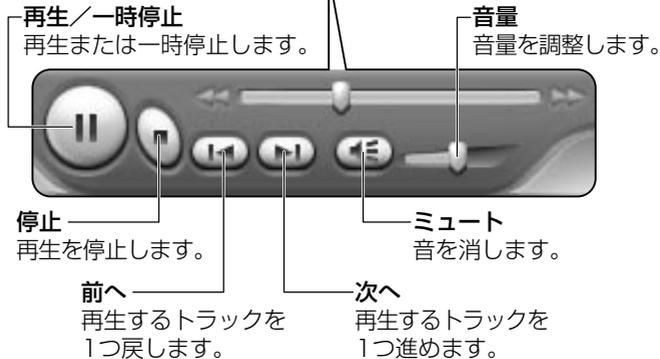
[Audio CD (D:)] 画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブをダブルクリックしてください。「Windows Media Player」が起動します。手順 3 へ進んでください。

2 [オーディオ CD の再生 Windows Media Player 使用] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

「Windows Media Player」が起動します。

3 画面のボタンで操作する

「Windows Media Player」の各操作ボタンの役割は次のとおりです。



ヘルプの起動方法

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

参照 → 「Windows Media Player」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 オーディオ/アプリケーションボタンやリモコンで起動する

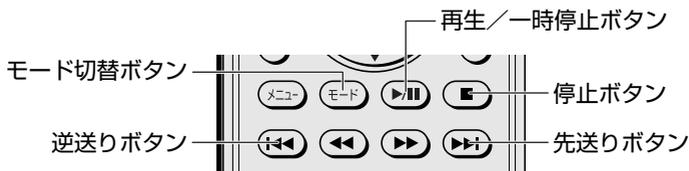
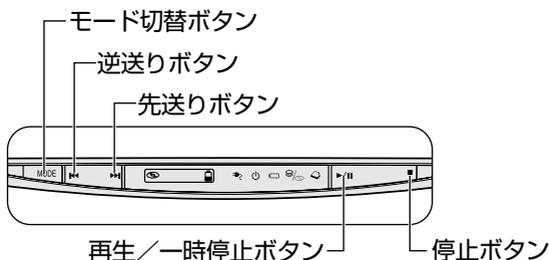
オーディオ/アプリケーションボタンやリモコンを使ってアプリケーションを起動することができます。

1 モードパネルに CD / DVD 再生アイコン () が表示されていることを確認する

CD / DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 再生/一時停止ボタンを押す



逆送りボタン	1つ前のトラックに戻って再生されます。
先送りボタン	再生するトラックを1つ進めます。
再生/一時停止ボタン	再生または一時停止します。
停止ボタン	再生中は、再生を停止します。 停止中は、ディスクトレイが出てきます。

「Windows Media Player」が起動します。

オーディオ/アプリケーションボタンやリモコンでも、再生や停止などの操作ができます。

2 Windows を起動しないで音楽 CD を聴く

オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使うと、Windows を起動しないで音楽 CD を再生できます。

1 操作方法

1 モードパネルに CD / DVD 再生アイコン()が表示されていることを確認する

CD / DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを押してください。



2 停止ボタンを押す

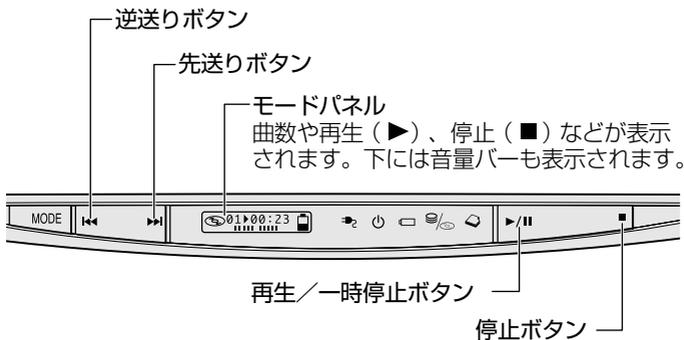
ドライブの電源が入り、モードパネルに次のように表示されます。Power LED は点灯しません。しばらくしてディスクトレイが出てきます。



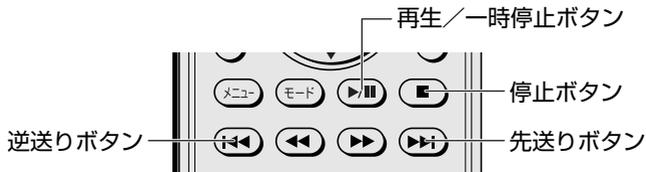
ドライブの電源を入れてから2分以上操作がない場合は、自動的にドライブの電源がOFFになり、モードパネルにはCD / DVD 再生アイコンのみ表示されている状態になります。その場合は、もう1度停止ボタンを押して電源を入れ直してください。

3 音楽 CD をセットする

4 オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンで操作する



リモコンで操作できるのは次のボタンです。



逆送りボタン	再生が始まって2秒未満（00：02が表示される前まで）に押すと、1つ前のトラックに戻って再生されます。 2秒以上たってから押すと、現在再生しているトラックの先頭から再生されます。
先送りボタン	再生するトラックを1つ進めます。
再生/一時停止ボタン	再生または一時停止します。
停止ボタン	再生中は、再生を停止します。 停止中は、ディスクトレイが出てきます。

5 終了する場合は、音楽CDを取り出す

停止ボタンを押して再生を停止した後、もう1度停止ボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

持ち運ぶときは、モード切替ボタンを4秒以上押してロック状態（) にしてください。オーディオ/アプリケーションボタンやリモコンで操作できなくなります（ロック状態）。

もう1度4秒以上押すか、電源を入れると、ロック状態が解除されます。

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav)
- MIDI形式 (.mid)
- MP3形式 (.mp3) など

1 音楽再生用アプリケーションを起動する

オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使ってアプリケーションを起動することができます。

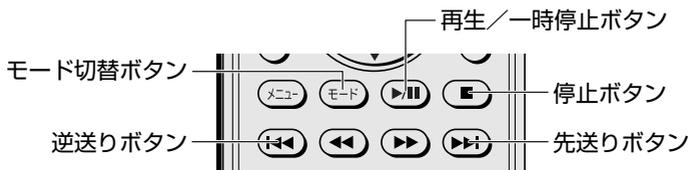
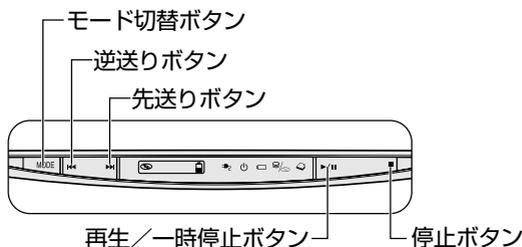
1 起動方法

1 モード切替ボタンを押す

モードパネルにオーディオデジタル再生アイコン（）が表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 再生／一時停止ボタンを押す



標準では「Windows Media Player」が起動します。

- ▶ **参照** Windows Media Playerの操作について
「本章 1-① Windows を起動して音楽CDを聴く」

2 Windows Media Player でファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 「Windows Media Player」のメニューバーから【ファイル】→【開く】をクリックする
- 2 聴きたい曲のファイルを選択し①、【開く】ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

参照 Windows Media Player の操作について
「本章 1-① Windows を起動して音楽 CD を聴く」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

- 音楽 CD のトラックをコピーする場合
 - ① 音楽 CD をセットする
 - ② [CD からコピー] ボタンをクリックする
 - ③ コピーするトラックをチェックする
 - ④ [音楽のコピー] ボタンをクリックする

- ファイルを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルを追加] をクリックする
 - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URL を追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面で URL またはパスを指定する

2 画面左の [メディアライブラリ] ボタンをクリックする

画面が切り替わります。

3 [すべてのオーディオ] をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [新しい再生リスト] ボタンをクリックする



5 [新しい再生リスト] 画面で、再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは例として「新規リスト」とします。

[新規リスト] が [再生リスト] フォルダに追加されます。

3 オリジナル 音楽CDを作る

「Drag'n Drop CD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』を参照してください。

「Drag'n Drop CD」は、本製品にはインストールされていません。インストールしてから使用してください。

▶ 参照 「Drag'n Drop CD」のインストールについて
「本項 ①-1 インストール方法」

1 Drag'n Drop CD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD」を使用してください。本製品に添付の「Drag'n Drop CD」以外の CD-RW、CD-R 用ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows 標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

▶ 参照 CD-RW、CD-R について「1 章 9-① CD / DVD について」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

▶ 参照 詳細について

「5 章 2 省電力の設定をする」

「5 章 3 パソコンの使用を中断する / 電源を切る」

-
- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・スクリーンセーバ
 - ・ウイルスチェックソフト
 - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
 - SD メモリカード、フロッピーディスク、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
 - LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
 - 本製品に付属している「Drag'n Drop CD」を使用して DVD-Video、DVD-Audio を作成することはできません。
 - 「Drag'n Drop CD」の [Music BOX] () を使用して、DVD-RW、DVD-R に音楽情報を書き込むことはできません。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
 - パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
 - 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
マルチスタイルベイ機器、PC カード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、i.LINK 対応機器、光デジタル対応機器、SD メモリカード
 - パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
 - オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
 - 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
-

「Drag'n Drop CD」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

1 インストール方法

1 添付の CD をセットする

〔設定言語の選択〕画面が表示されます。

参照 → CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 「日本語」が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

〔Drag'n Drop CD セットアップ〕画面が表示されます。

3 画面の指示に従って「Drag'n Drop CD」をインストールする

4 再起動する

2 Drag'n Drop CD を使う

インストールされた「Drag'n Drop CD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

「Drag'n Drop CD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CD] をクリックする

デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CDの基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



— [Music BOX]

音楽CDを作成するときに使用します。
音楽ファイルをこのボックスにドラッグすると [Audio CD Layout Window] が開き、そこで好きな曲を選択すると自分だけの音楽CDを作成できます。



— [DISC Backup BOX]

著作権上コピーが認められているCDやDVDのバックアップを作成するときに使用します。



— [Data BOX]

フォルダやファイルをドラッグアンドドロップしてデータCDやDVDを作成するときに使用します。

▶ 参照 → 詳細について『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』

「Drag'n Drop CD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。CDに保存されているMP3方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接 [Music BOX] にドラッグできません。1度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽CDをセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示された場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

3 [Audio CD (D:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽CDトラック情報] には曲情報が表示されています。

4 [ブランク CD サイズ] を指定する

5 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[トラックの再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。



6 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。完了すると、[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



トラックを選択して、 ボタンまたは  ボタンをクリックすると、選択したトラックが上下へ移動し、曲順が入れ替わります。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽 CD から取り込みたい場合は、ここで音楽 CD を入れ替え、手順 5、6 を繰り返します。

7 音楽 CD を取り出し、未使用の CD-R をセットする

8 [CDへ書き込み] ボタン () をクリックする

CDへの書き込みが開始されます。書き込み中は進行状況を示す画面が表示されます。

書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

- 1 **【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【Drag'n Drop CD】 → 【Drag'n Drop CDのヘルプ】 をクリックする**

「Drag'n Drop CD」のヘルプが表示されます。



「Drag'n Drop CD」の問い合わせ

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 オリジナル MD を作る

光デジタルオーディオ出力端子に MD レコーダを接続すると、音楽 CD から MD レコーダへの録音ができます。

お願い

録音中は Windows の「マスタ音量」の設定を変更しないでください。パソコンの再生音量を変更すると、MD レコーダでの録音レベルも変更されてしまいます。録音中のパソコン本体からの再生音を消したい場合は、あらかじめボリュームダイヤルを動かなくなるまで手前に回し、音量をゼロにしておいてください。

▶ 参照 → マスタ音量について「1 章 8-① スピーカの音量を調整する」

1 録音方法

1 音楽 CD をセットする

2 光デジタルオーディオ出力端子と MD レコーダを接続する

プラグの形状を確認して接続してください。

▶ 参照 → 光デジタルオーディオ出力端子について

「4 章 9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する」

3 「Windows Media Player」で再生リストを作成する

▶ 参照 → 再生リストの作成

「本章 2-② Windows Media Player でファイルを再生する」

4 MD レコーダの録音ボタンを押す

5 「Windows Media Player」で再生リストを再生する

録音が始まります。

5 DVD-Video を観る

本製品は、ドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、「インタービデオ ウィンディーファイター InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力キューティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- 外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示されません。

参照▶ 表示装置の切り替え「4章 6-2 テレビに表示する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme\st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」は Windows からでも、Windows が起動していない状態（電源が入っていないなど）でも起動することができます。

1 Windowsから起動する

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 DVD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブをダブルクリックしてください。
「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 [DVD ムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンから起動する

Windows が起動していないときに、オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンで「InterVideo WinDVD」を起動できます。

1 モードパネルに CD / DVD 再生アイコン()が表示されていることを確認する

CD / DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 停止ボタンを押す

ドライブの電源が入り、モードパネルが次のように表示されます。
Power 電源 LED は点灯しません。しばらくしてディスクトレイが出てきます。



3 DVD-Video をセットする

ディスクトレイを閉じて、しばらくすると Windows が起動し、その後「InterVideo WinDVD」が起動します。Windows が起動するまで、数秒かかる場合があります。
DVD-Video を再生する場合は、続けて [再生] ボタンをクリックしてください。

2) InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。

また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

メインウィンドウ
ビデオを表示します。

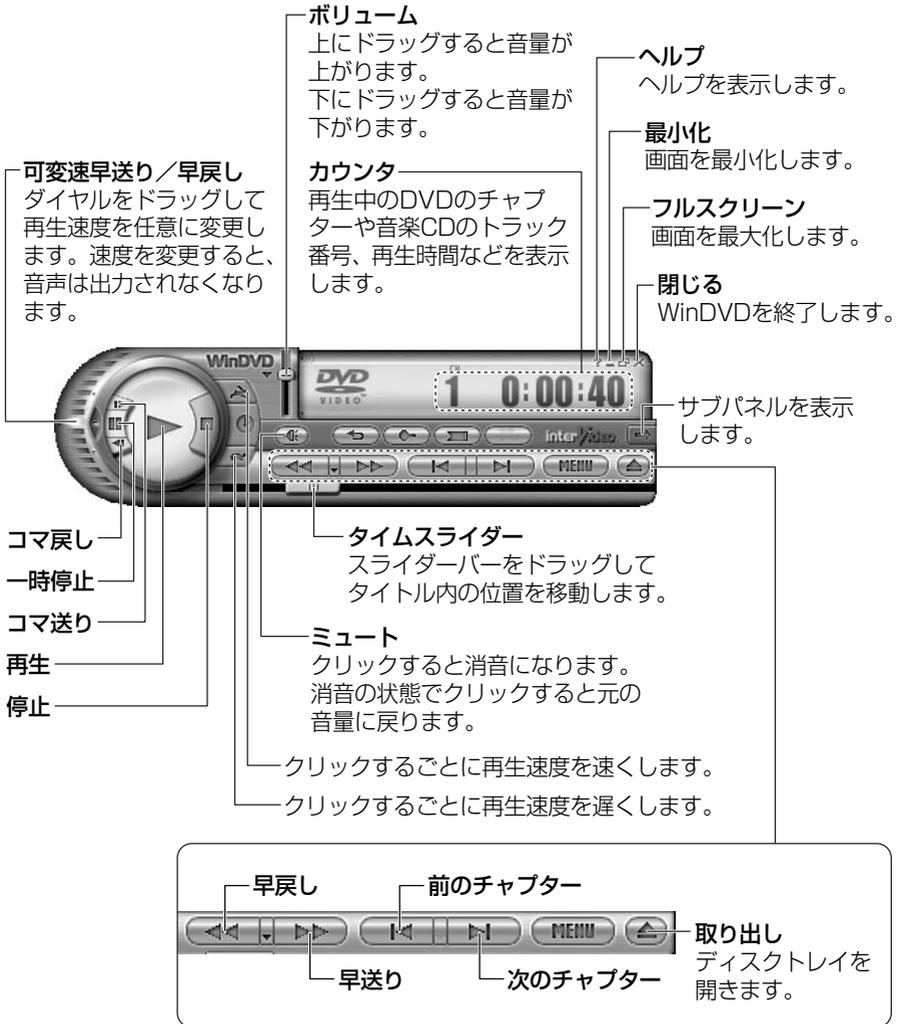


WinDVDコントロールパネル

DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。再生の操作でおもに使用するボタンについては、「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照してください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

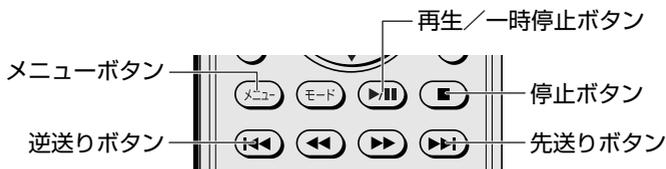
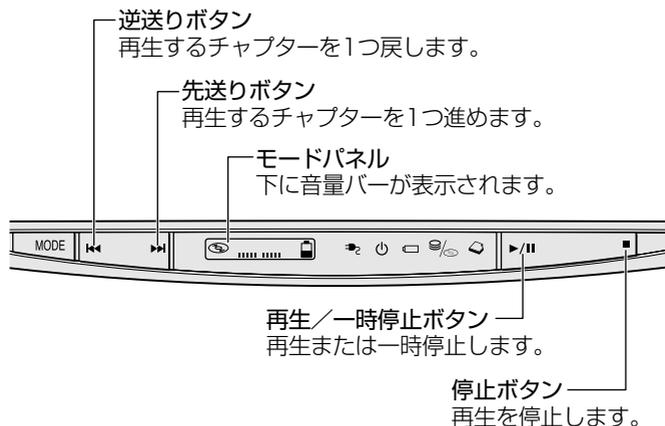
- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンで操作する

DVD-Videoの基本操作は、オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使うこともできます。



5 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Videoの再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

▶ 参照 ▶ テレビの接続、表示装置の切り替え 「4章 6 テレビを接続する」

ヘルプの起動方法

- 1 WinDVDコントロールパネルの【ヘルプ】ボタン（）をクリックする

▶ 参照 ▶ 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

6 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「ウォーカー デジカメ Walker (ユーリード アイフォト Ulead iPhoto エクスプレス Express)」が用意されています。

1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

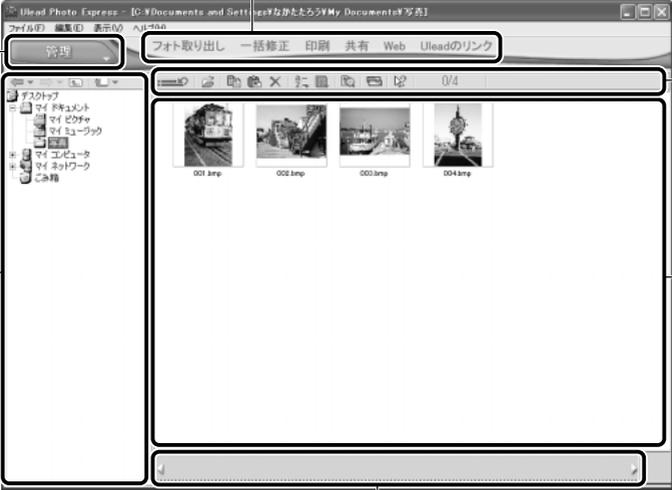
1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする

ショートカットバー
よく使う操作をボタンから行うことができます。

モードを選択します。
管理、編集、テンプレートから選択できます。

コマンドパネル
モードによってコマンドが変わります。作業領域で行う作業を選択します。



オプションパネル
コマンドによって表示が切り替わります。詳しい設定ができます。

作業領域
イメージやプロジェクトを見たり編集したりする場所です。

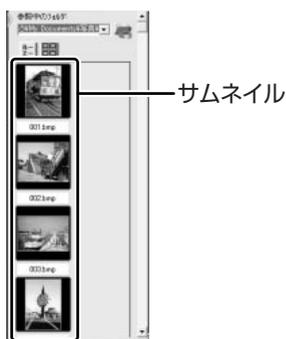
サムネイルストリップ
開いているイメージやプロジェクトのサムネイル (一覧表示画像) が表示されます。

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 **【編集】モード** () でコマンドパネルから **【フォト取り出し】** → **【マイコンピュータ】** をクリックする
オプションパネルに **【参照中のフォルダ】** が表示されます。
- 2  をクリックし、表示されたメニューから **編集する写真のあるフォルダ** をクリックする
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 **編集する画像のサムネイル** をクリックし、**【開く】** ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

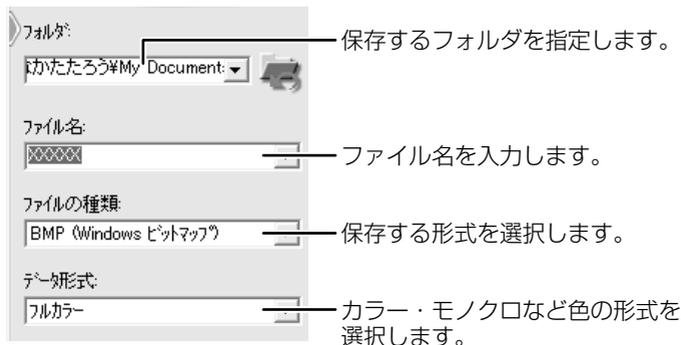
- 4 コマンドパネルから **【編集】** のメニューをクリックし、**画像を加工する**

次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

- 1 コマンドパネルから [共有] → [保存] をクリックする
オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



- 2 [保存] ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [Ulead iPhoto Express のヘルプ] をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Screenbook] をクリックする

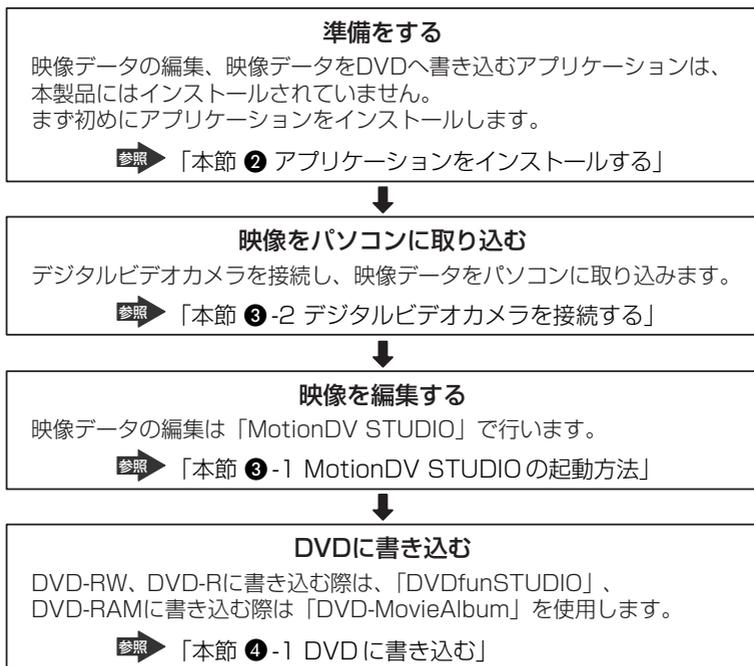
参照 → 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

7 映像を編集する

本製品には、映像を編集することができるアプリケーション「MotionDV STUDIO」モーションディーバイ スタジオ「DVDfunSTUDIO」ディーバイディーファンスタジオ「DVD-MovieAlbum」ディーバイディームービーアルバムが用意されています。また、「DVDfunSTUDIO」を使ってDVD-Video形式の、「DVD-MovieAlbum」を使ってDVD-VR形式の映像DVDを作成することができます。

1 映像編集の流れ

映像を編集する流れは、次のとおりです。



2) アプリケーションをインストールする

「MotionDV STUDIO」「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

1 MotionDV STUDIOのインストール方法

- 1 「MotionDV STUDIO」と記載されているCDをセットする

参照 → CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

- 2 画面の指示に従って「MotionDV STUDIO」をインストールする

2 DVDfunSTUDIOのインストール方法

- 1 「DVDfunSTUDIO」と記載されているCDをセットする

参照 → CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

- 2 画面の指示に従って「DVDfunSTUDIO」をインストールする

3 DVD-MovieAlbumのインストール方法

- 1 「DVD-MovieAlbum」と記載されているCDをセットする

参照 → CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

- 2 画面の指示に従って「DVD-MovieAlbum」をインストールする

3 映像を編集する

「MotionDV STUDIO」を使うと、デジタルビデオカメラなどの映像を編集できます。デジタルビデオカメラをi.LINK (IEEE 1394) コネクタに接続して、撮影した映像をパソコンに取り込みます。特殊効果やタイトル、BGMなどをつけて編集し、さまざまな形式で保存できます。

詳細については、「MotionDV STUDIO」のヘルプを確認してください。

お願い 映像データの編集について

- WinDVD など映像を表示するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示できない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。本体に外部ディスプレイを接続している場合、外部ディスプレイには表示されません。
- 著作権保護された映像が保存されている DVD-RW、DVD-R の映像の編集は「MotionDV STUDIO」では行えません。
- 「DVD-MovieAlbum」では著作権保護されているコンテンツは再生できません。検出した時点で、再生を中止します。
- 「MotionDV STUDIO」動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないください。

1 MotionDV STUDIO の起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO] → [MotionDV STUDIO] をクリックする
はじめて「MotionDV STUDIO」を起動したときは、[Panasonic MotionDV STUDIO 使用許諾書] 画面が表示されます。契約内容を確認の
うえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。

TOOL BOX

目的の操作機能を選ぶことができます。ここで選んだ機能に合わせて、ワークエリアに表示される画面が切り替わります。

ワークエリア

接続したデジタルビデオカメラをコントロールしたり、取り込んだ映像を編集するエリアです。それぞれの機能別に画面が分かれています。



ガイドンス画面

TOOL BOXで選んだ機能に関する操作の説明が表示されます。

2 デジタルビデオカメラを接続する

デジタルビデオカメラを使用する場合、次の手順で正しく接続されているかどうか、確認してください。

- 1 i.LINK (IEEE1394) ケーブルをパソコン本体に接続する

参照▶ i.LINK ケーブルの接続

「4章 8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する」

- 2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する

3 デジタルビデオカメラの電源を入れる

[デジタル ビデオ デバイス] 画面が表示されます。

- 4 [ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用] が選択されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



「MotionDV STUDIO」が起動します。デジタルビデオカメラの映像をパソコンに取り込む方法については、「MotionDV STUDIO」のヘルプを確認してください。

MotionDV STUDIO のヘルプの起動方法

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [ヘルプ] をクリックする

ヘルプを起動すると「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

参照 ▶ 「MotionDV STUDIO」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 編集した映像を書き込む

編集した映像データを DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R に書き込み、オリジナル DVD を作成することができます。

「MotionDV STUDIO」で編集したデータを DVD-RW や DVD-R に書き込むには「DVDfunSTUDIO」、DVD-RAM に書き込むには「DVD-MovieAlbum」が必要です。あらかじめそれぞれのアプリケーションをインストールして使用してください。

お願い 編集した映像データを書き込む前に

編集した映像データを書き込む場合は、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R に書き込みを行う際には、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器の取扱説明書でも推奨されているメディアを使用してください。

参照▶ DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R について
「1 章 9-① CD / DVD について」

- 「DVDfunSTUDIO」では、8cm (3.15") の DVD-RW、DVD-R への書き込みはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-RW、DVD-R に VR フォーマットでの書き込みはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、書き込みが可能な DVD-RW、DVD-R へ最大約 3 時間の映像データを DVD ビデオフォーマットで記録できます。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-Audio や Video CD、miniDVD を作成することはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-RAM をサポートしていないため、DVD-RAM に DVD-Video 形式のデータを書き込むことはできません。また、DVD-RAM をドライブにセットした状態で動作させると正しく処理ができない場合があります。
- 「DVDfunSTUDIO」で DVD-RW、DVD-R へ書き込みを行うには、ハードディスクに 20GB 以上の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。
- 書き込み済みの DVD-RW に書き込みを行う場合は、「Drag'n Drop CD」などで消去する必要があります。消去方法については、「Drag'n Drop CD」のヘルプを確認してください。

参照▶ 「Drag'n Drop CD」のヘルプ「本章 3-② Drag'n Drop CD を使う」

- 「DVD-MovieAlbum」で DVD-RAM へ書き込むには、あらかじめフォーマットツールで UDF2.0 形式のフォーマットをしておく必要があります。

参照▶ DVD-RAM のフォーマット「1 章 9-② DVD-RAM を使うときは」

- 「DVD-MovieAlbum」で PAL 形式の映像を保存した DVD-RAM には、PAL 形式の映像しか追記できません。また、NTSC 形式の映像を保存した DVD-RAM には、NTSC 形式の映像しか追記できません。

-
- 「DVD-MovieAlbum」でPAL形式でDVD-RAMに保存された映像はNTSC形式に変換できません。また、NTSC形式でDVD-RAMに保存された映像は、PAL形式に変換できません。
 - DVD-RAMでVRフォーマットした場合、次の機能は使用できません。
マルチストーリー マルチアングル マルチアスペクト比
マルチランゲージ パレンタルロック リージョンコード コピーガード
 - ヘルプやオンラインマニュアル上にJPEGファイルが扱える記述がありますが、実際には使用できません。
 - 本製品に添付の「MotionDV STUDIO」「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」以外の映像データ書き込み用ソフトウェアは動作保証していません。
 - バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを電源コンセントに接続してください。
 - 「Drag'n Drop CD」などドライブをロックするアプリケーションが常駐している場合は、DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rへの書き込みは行えません。「Drag'n Drop CD」は必ず終了させてください。
 - 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照  詳細について

「5章 2 省電力の設定をする」

「5章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ スクリーンセーバ
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
-

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- 「DVDfunSTUDIO」でDVD-RW、DVD-Rに映像データを書き込む場合、映像データの大きさによってはデータの変換に数時間かかることがあります。またディスクの書き込み終了までには、さらに数時間かかることがあります。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
マルチスタイルベイ機器、PCカード、USB対応機器、CRTディスプレイ、i.LINK対応機器、光デジタル対応機器、SDメモ리카ード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

お願い 作成した映像データについて

- 作成したDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合もあります。
- 作成した映像データを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

1 DVDに書き込む

「MotionDV STUDIO」で編集した映像データを、いったん「DVDfunSTUDIO」 「DVD-MovieAlbum」(VRWriter)へ出力し、その後DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rへ書き込みを行います。

- 1 映像の編集を終了したあと、TOOL BOXの「出力」アイコンにポインタを合わせ①、「DVD-R/RWへ出力」アイコンまたは「DVD-RAMへ出力」アイコンをクリックする②



「DVD-R/RW 出力」画面または「DVD-RAM 出力」画面が表示されます。

メモ

ファイルの選択をうながすメッセージが表示された場合は、ワークエリアでファイルを選択してから、再度手順1の操作を行ってください。その際、「DVD-R/RW 出力」画面や「DVD-RAM 出力」画面が表示されずに、直接「DVDfunSTUDIO」や「VRWriter」が起動する場合があります。

次の画面は「DVD-R/RW 出力」画面です。

画面の構成は「DVD-RAM 出力」画面も同じです。

コントロール画面

書き込みをしたい映像を表示して確認することができます。

ライブラリ画面

ハードディスクに保存・登録してあるファイルが表示され、閲覧することができます。ここから読み込みたいファイルをドラッグアンドドロップして指定することもできます。



入出力画面

書き込みたいファイルを指定して名前を付けたりすることができます。

「出力」ボタンをクリックすると、書き込み用のアプリケーションが起動します。

DVD-RW、DVD-R への書き込み用アプリケーションは「DVDfunSTUDIO」、DVD-RAM への書き込み用アプリケーションは「DVD-MovieAlbum」内の「VRWriter」^{ファイナルライター}です。

はじめて起動したときは、使用許諾書画面が表示されます。

契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。

「DVDfunSTUDIO」が起動したら、ドライブに DVD-RW または DVD-R をセットしてください。「VRWriter」が起動したら、ドライブに DVD-RAM をセットしてください。

▶ 参照 → CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R への書き込み方法についての詳細は、「MotionDV STUDIO」のヘルプ、「DVDfunSTUDIO」のヘルプ、「VRWriter」のヘルプを確認してください。

DVDfunSTUDIO のヘルプの起動方法

1 「DVDfunSTUDIO」を起動後、[ヘルプ] ボタン () をクリックする

ヘルプを起動すると、「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

▶ 参照 → 「DVDfunSTUDIO」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

VRWriter のヘルプの起動方法

1 「VRWriter」を起動後、[ヘルプ] ボタン () をクリックする

2 表示されたメニューから [VRWriter のマニュアル] をクリックする

ヘルプを起動すると、「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

▶ 参照 → 「VRWriter」(「DVD-MovieAlbum」) の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、自動的にメールチェックするときや海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 118
 - 2 Bluetooth 機能を使う 133
 - 3 新着メールをモードパネルで確認する 144
 - 4 内蔵モデムについて 153

1 LANへ接続する

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

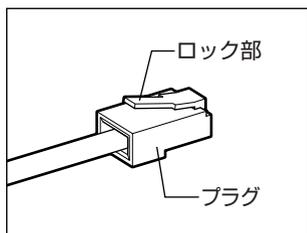
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときには、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

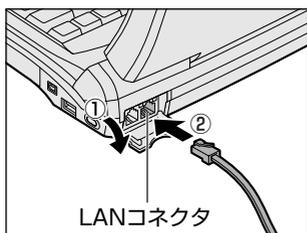
10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときには、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

- 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 2 背面のコネクタカバーを開き①、LANケーブルのプラグをLANコネクタに差し込む②



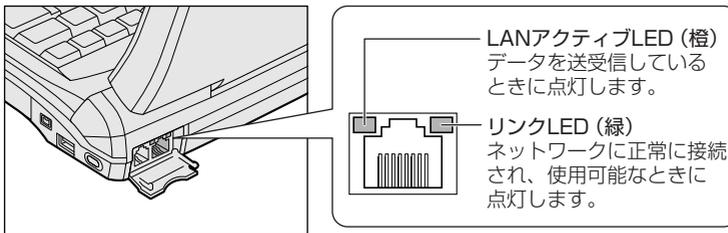
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

⚠ 注意

- ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。

- 1 [コントロールパネル]を開き、[ ネットワークとインターネット接続]をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

無線 LAN モデルには、無線 LAN 機能が内蔵されています。

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線 LAN の概要

本製品では、次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能。11、5.5、2、1Mbps の転送レートから選択可能。
- 周波数チャネル選択（2.4GHz 帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- IEEE802.11 規格で規定されている RC4 暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化（WEP）

【無線LANの種類】

無線LANモデルに内蔵の無線LAN機能は、IEEE802.11bに準拠しています。無線LANは最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- Wireless Ethernet Compatibility Alliance, WECA 認定のWi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。
Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11bに準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE802.11bに準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
-  は Wireless Ethernet Compatibility Alliance, Inc. の認証マークです。

【セキュリティ】

WEP (暗号化) 機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめいたします。

参照 → WEP機能の設定「本項4-WEP機能を設定する」

お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で使用してください。無線通信のレンジを最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国で適用される無線規制については、「付録4-6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

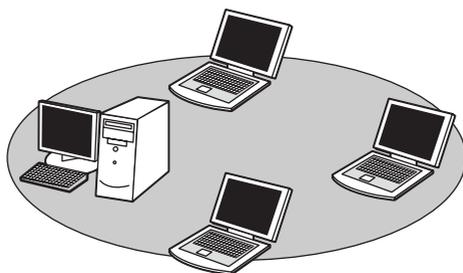
無線LANネットワークには、次のような機能があります。

- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する
参照 → 「ピア・ツー・ピアワークグループ」
- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する
参照 → 「インフラストラクチャネットワーク」

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。パソコンなどのデバイス同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような [ファイルとプリンタの共有] などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア・ツー・ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

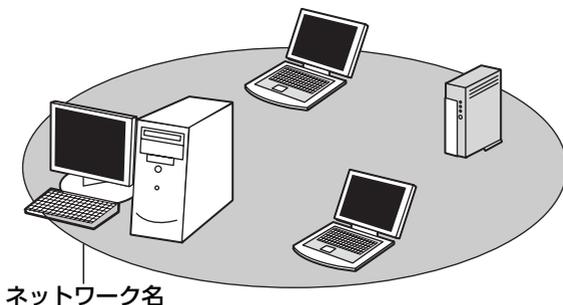
➡ 参照 ▶ ピア・ツー・ピアワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用してネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。ネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

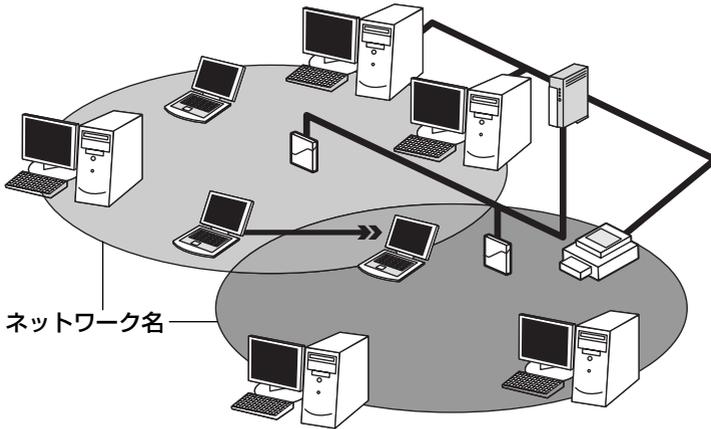
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込むネットワーク形態です。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 → ネットワーク接続のための設定について「本項 3 基本設定」

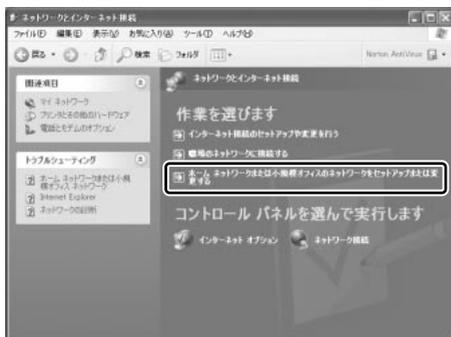
3 基本設定

無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

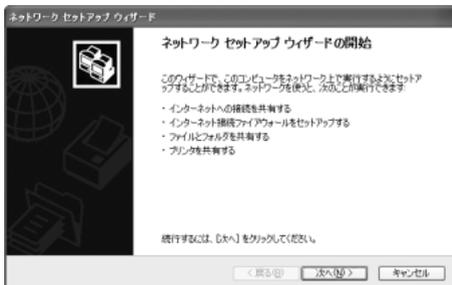
Windows XPは、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

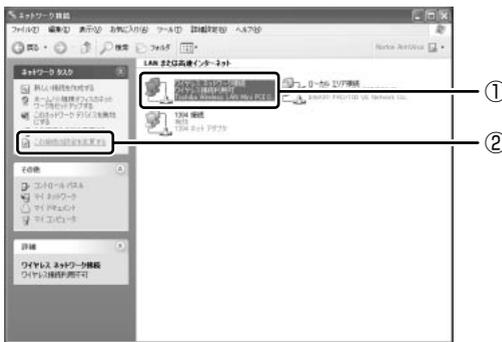


4 詳細設定

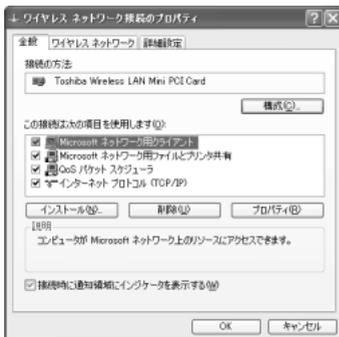
無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には 128 ビットと 64 ビットの 2 種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

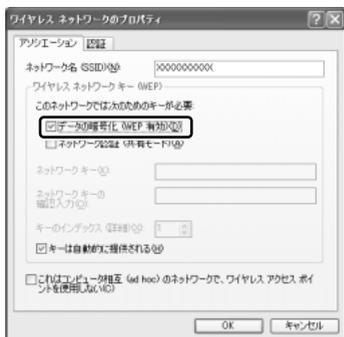
参照 → 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化 (WEP 有効)] をチェックする



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
[キーは自動的に提供される]がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
 - ① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす
 - ② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高 (128ビット)	13文字	26文字
低 (64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「**** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

お願い

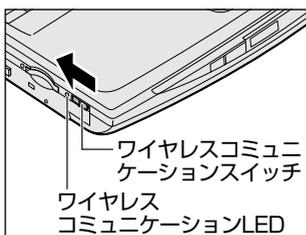
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線) LED がオレンジ色に点灯します。

無線 LAN 機能が起動します。

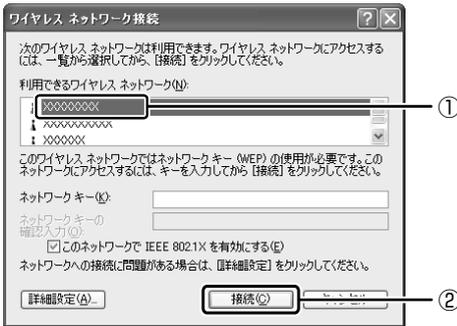
無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン (無線) を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

- 3 [利用できるネットワーク] の使いたいネットワークを選択し①、
[接続] ボタンをクリックする②



接続できると、通知領域に「ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました」とメッセージが表示されます。

- 4 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 5 [ネットワークタスク] の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする
- 無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ 操作集

通信状態を確認する

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。
《サイバーサポート》でも検索できます。

3 ネットワーク設定／デバイスを切り替える

「ネットワークデバイススイッチ」を使って、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。ネットワーク設定をプロファイルとして管理し、プロファイルを選択するだけで、以前設定したネットワークの設定内容に切り替えることができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を簡単に切り替えられます。

無線 LAN モデルでは、自動切り替え機能が利用できます。

自動切り替え機能では、LAN ケーブルが抜かれたとき、もしくは無線ネットワーク (SSID) を検知したときに自動で LAN 接続 (有線 LAN / 無線 LAN) の切り替えを行います。例えば、リビングルームでは有線 LAN に接続し、書斎に移動したときは無線 LAN でネットワークに接続するといった使いかたができます。

詳しくは、「ネットワークデバイススイッチ」のヘルプを参照してください。

起動方法

コンピュータの管理者アカウントで起動してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Network Device Switch] → [Network Device Switch] をクリックする

初めて起動したときは、「現在のネットワーク設定を以下のプロファイルで作成しました。」というメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。

- 2 [タスクバーに常駐する。] をチェックし①、[終了] ボタンをクリックする②



通知領域にアイコン () が表示されます。

使用方法

次のように操作して、デバイスを簡単に切り替えられます。

1 通知領域の [Network Device Switch] アイコン () をクリックする

デバイスの一覧が表示されます。

2 使用したいデバイスをクリックする

切り替えが行われます。

ネットワークデバイスを切り替えただけで、ネットワークにログオンし直す必要がある場合があります。

その他の機能

通知領域の [Network Device Switch] アイコン () を右クリックするとメニューが表示されます。*のついている項目は、無線 LAN モデルのみ選択できます。それぞれのメニューをチェック () すると、次のような機能が使用できます。

- 自動切り替え (ケーブル切断)*
有線 LAN デバイスのケーブルが抜けた際、自動的に無線 LAN が有効になります。また、有線 LAN デバイスのケーブルが接続されると、自動的に無線 LAN から有線 LAN に切り替えます。
この機能は、以下の条件で有効になります。
 - ・ 有線 LAN がすでに有効になっていること
 - ・ TCP/IP プロトコルが使われていること
- 自動切り替え (SSID)*
[自動切り替え (SSID)] 画面が表示され、自動切り替え (SSID) を有効に設定するなどが行えます。
- プロファイルの追加
[プロファイルの追加] 画面が表示され、プロファイルを新たに作成することができます。
- プロファイルの削除
[プロファイルの削除] 画面が表示され、プロファイルを削除することができます。
- プロファイルの編集
[プロファイルの編集] 画面が表示され、既存のプロファイルの内容を変更することができます。
- メイン
[Network Device Switch (メイン)] 画面が表示されます。

-
- 診断
TCP/IP 設定を診断します。
 - ヘルプ
ヘルプを表示します。
 - 終了
「ネットワークデバイススイッチ」を終了します。

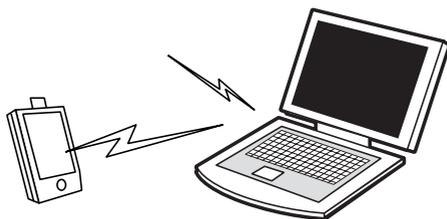
2 Bluetooth 機能を使う

1 Bluetooth とは

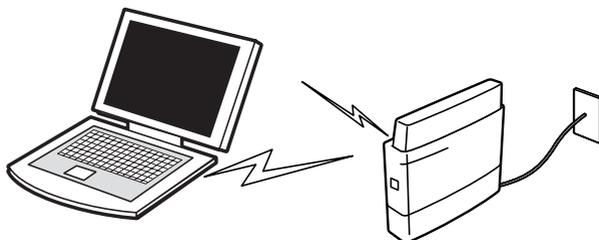
ブルートゥース
Bluetooth とは、無線の通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD メモリカードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のモデムステーションを利用してインターネットに接続できたりします。

● PDA と…

(使用例)



● Bluetooth 対応のモデムステーションと…



また、Bluetooth 機能機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、最初に発信する Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。

メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

お願い

本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。

【通信距離と速度】

本製品は、見通し約10mの範囲で通信できます。赤外線通信のように、コネクタを向き合わせる必要はありません。データ通信速度は最大約720kbpsです。通信距離、通信速度は、周囲の電波環境、障害物設置環境、アプリケーションソフトウェア、OSなどにより異なります。また、周囲の電波環境などにより通信が切断される場合があります。

【セキュリティ】

Bluetooth機能を使って通信を行うときに使用する2.4GHz帯は、日本をはじめ世界各国で特別な認可なしに使用できる周波数帯域です。そのため、不特定のBluetooth対応機器から接続されたり、同じ周波数帯域を使用する他の機器（電子レンジなど）の電波の干渉を受ける可能性があります。

Bluetooth対応機器には、それぞれ固有のIDが割り振られ、接続時にはIDの交換を行ったり、通信中は、使用周波数をランダムに切り替えるなど、他の機器からの干渉を軽減する仕様になっているので高いセキュリティ機能があります。また、本製品にインストールされている「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の「Bluetooth Service Center」で、初めて通信を開始するときに「Bluetooth パスキー」が必要になる設定もできます。Bluetoothパスキーについては、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」のヘルプ『Bluetooth User's Guide』を参照してください。

▶ 参照 『Bluetooth User's Guide』の起動方法「本節 ④-ヘルプの起動」

【Bluetooth 標準規格】

Bluetoothは様々な機器同士で無線通信できることを目標にした無線技術です。そのため、各国・各メーカーのBluetooth対応機器でスムーズに通信できるようにBluetooth SIG (Special Interest Group) が無線通信の方式など相互接続に必要な仕様の標準規格を定めています。また、各メーカーはBluetooth対応機器の発売にあたり、そのBluetooth対応機器がBluetooth標準規格に適合しているか、認証を受けることを義務付けられています。Bluetooth SIGによって認証されたBluetooth対応機器には、Bluetoothロゴが添付されます。この規格に従えば、今後はゲーム機や家電など、さまざまな機器がワイヤレスで接続、コントロールできるようになると言われています。

【サポートしているプロファイル一覧】

本製品でサポートしているプロファイルは次のとおりです。

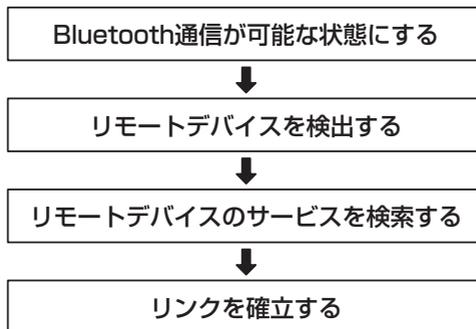
- Generic Access
- Service Discovery Application
- Serial Port
- Dial-up Networking
- FAX
- LAN Access

2 Bluetooth 機能を使って通信する

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth 東芝ユーティリティ」がプレインストールされています。

「Bluetooth 東芝ユーティリティ」は、「Bluetooth Manager」、「Bluetooth Service Center (Bluetooth サービスセンター)」、「Bluetooth Local COM」、「Network Server Service (LAN エミュレーションネットワークサーバーサービス)」の4つのアプリケーションにより構成されており、その中心となるのは「Bluetooth Manager」と「Bluetooth サービスセンター」です。

ここでは「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の基本的な使いかたを紹介します。通信するまでの流れは、次のとおりです。



1 Bluetooth通信が可能な状態にする

お願い

Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断されることがあります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

Bluetooth機能の起動方法

- 1 本体左側面にあるワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (P) LED がオレンジ色に点灯します。

- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [Bluetooth Manager] をクリックする

「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン (I) が表示されます。

初めて起動したときは、[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が何度か表示されます。画面に従って操作してください。

途中、「Windows XPとの互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としないので [続行] ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



【Bluetooth Manager】アイコン（）はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

無線 LAN モデルでは、無線 LAN（WirelessLAN）と同時に使用する際の【注意】画面が表示されます。手順 3 以降を行ってください。

- 3 【OK】 ボタンをクリックする
- 4 **[Fn] + [F8]** キーを押す
無線通信機能を選択する画面が表示されます。
- 5 **[F8]** キーを押し、カーソルを【Bluetooth 有効】に合わせる
[F8] キーを押すたびにカーソルが移動します。
- 6 **[Fn]** キーを離す

デバイス名の設定

自分のマシンに名前をつけます。他の機器で検出されたときに、ここで設定した名前が表示されます。一度設定した名前を使用するときは、この操作は必要ありません。

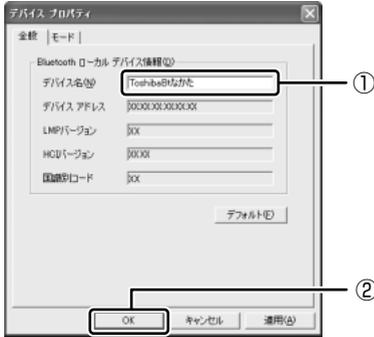
- 1 通知領域の【Bluetooth Manager】アイコン（）を右クリックする
- 2 表示されたメニューから【デバイスプロパティ】をクリックする



【デバイスプロパティ】画面が表示されます。

3 [デバイス名] に名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②

ここでは、名前を「ToshibaBluetooth」と入力しています。



デバイス名が設定されます。

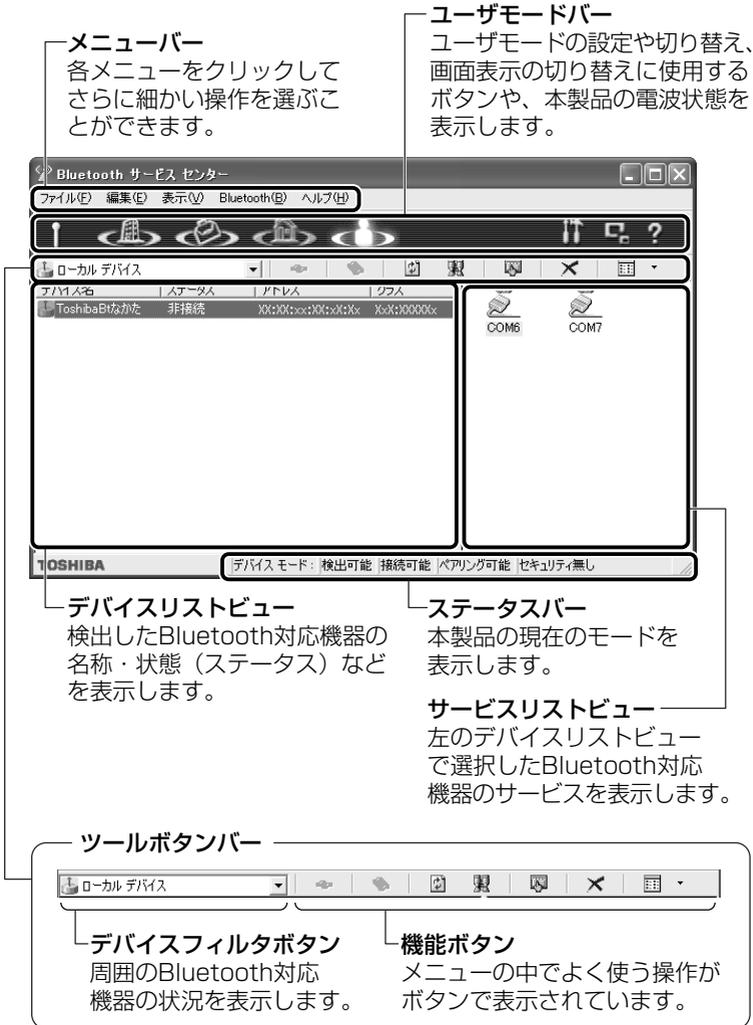
Bluetooth Service Center の起動

「Bluetooth Service Center」は、Bluetooth サービス（Bluetooth での通信の種類）を統合的に管理するユーティリティです。「Bluetooth Service Center」で、他の Bluetooth 対応機器との通信に関する操作を行います。

- 1 Bluetooth 通信が可能な状態にする
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () をダブルクリックする

「Bluetooth Service Center」が起動します。

【Bluetooth サービスセンター】画面】

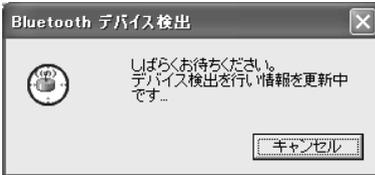


2 リモートデバイスを検出する

デバイスの検出を行うと、その時点で通信可能な他の Bluetooth 対応機器がわかります。通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」と呼びます。

1 [デバイス検出] ボタン () をクリックする

リモートデバイスの検出を開始します。



デバイスフィルタ欄が [リモートデバイス] に変わり①、検出されたリモートデバイスがデバイスリストビューに表示されます②。



検出の結果は、環境、リモートデバイスの状態によって異なります。

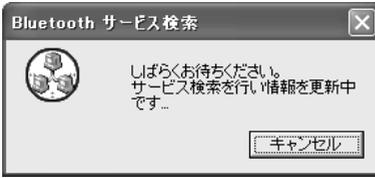
3 リモートデバイスのサービスを検索する

検出したデバイスが、どのようなサービス (Bluetooth での通信の種類) を実行できるのかを調べます。

1 目的のリモートデバイスをクリックし①、[サービス検索] ボタン () をクリックする②



リモートデバイスのサービスの検索を開始します。



サービスリストビューにリモートデバイスのサービスが表示されます。

検出の結果は、環境、リモートデバイスの状態によって異なります。



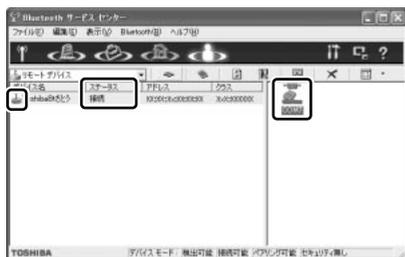
4 リンクを確立する

リンクの確立とは、お互いに目的のサービスをサポートしているかデバイスが確認し合うことです。リンクを確立すると、通信できるようになります。

- 1 接続するリモートデバイスの提供するサービスをクリックし①、【接続】ボタン () をクリックする②



リンクが確立すると、選択したリモートデバイスの [ステータス] が [接続] に変わり、サービスのアイコンが接続状態に変わります。



リモートデバイスと通信を行うことができます。

3 Bluetooth 通信を切断する

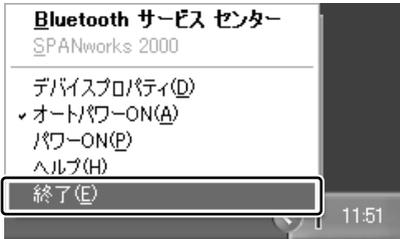
通信をやめるときは、次の操作を行います。

- 1 接続しているリモートデバイスのサービスアイコンをクリックし①、
[切断] ボタン () をクリックする②



4 Bluetooth 東芝ユーティリティを終了する

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [終了] をクリックする



[Bluetooth Manager] 画面が表示されます。



- 3 メッセージを確認し、[はい] ボタンをクリックする

ヘルプの起動

【クイックスタートガイド】

『クイックスタートガイド』では、Bluetoothの基本的な使用方法について説明しています。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [クイックスタートガイド] をクリックする

【Bluetooth User's Guide】

『Bluetooth User's Guide』では、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」について説明しています。

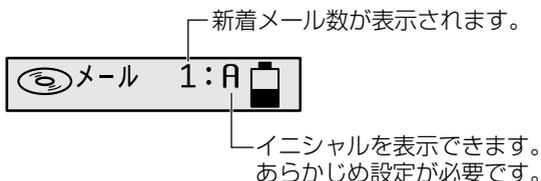
- 1 「Bluetooth Manager」を起動する
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする

▶ 「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の問い合わせ
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 新着メールをモードパネルで確認する

メールソフトを起動しなくても、設定した日時に自動的に Windows を起動して新着メールが届いているかどうかチェックできます。これを新着メールチェック機能といいます。

新着メールが届いていると、モードパネルに新着メール数が表示されます。



新着メールチェック機能を使用するには、あらかじめ設定が必要です。

新着メールチェックを行うには、電話料金およびプロバイダへの接続料金がかかります。

【新着メールチェック機能を使用できる状態】

新着メールチェック機能を使用するときは、必ず AC アダプタを使用し、本製品と電話回線をモジュラーケーブルで接続してください。

新着メールチェック機能はパソコンが次の状態のときに使用できます。

- 電源が入っているとき
- スタンバイ機能を実行しているとき
- 休止状態のとき

スタンバイ機能を実行中や休止状態にしているときは、設定した時間にパソコンが自動的に起動し、新着メールをチェックします。

新着メールチェック機能は、メールソフトの設定が完了している場合に使用できます。メールソフトの設定については、契約しているプロバイダからの資料を確認してください。

1 新着メールチェックの設定をする

新着メールチェック機能を使用するために必要な、各種設定について説明します。

1 Windowsログオンパスワードを設定する

新着メールチェック機能を設定するには、Windows のログオンパスワードの入力が必要です。あらかじめ Windows のログオンパスワードを設定しておいてください。



Windows のログオンパスワードについて

『基本をマスター 4 章 1 Windows ログオンパスワード』

2 [メール]アイコンを通知領域に表示する(新着メールチェック機能を開始する)

新着メールチェック機能は、「メール着信ユーティリティ」で設定します。
「メール着信ユーティリティ」は次の手順で起動します。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする



この操作を初めて行った場合、[タスクを作成します] 画面が表示されます。

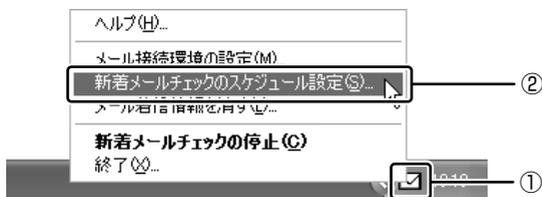
次の手順を行ってください。

- ① 表示される内容を確認して、[OK] ボタンをクリックする
[アカウント パスワードを設定してください] 画面が表示されます。
 - ② [パスワード] と [パスワード確認入力] の2カ所に、Windows のログオンパスワードを入力する
Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして、「メール着信ユーティリティ」を終了してください。Windows のログオンパスワードを設定したうえで、もう1度「メール着信ユーティリティ」を起動してください。
 - ③ [OK] ボタンをクリックする
[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。
- 3 [基本設定] タブで [実行する (指定された時刻に新着メールのチェックを行う)] をチェックする ()
 - 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
 - 5 [基本設定] タブで [コンピュータ起動時に常駐する] をチェックする ()
チェックしておくパソコン起動時に自動的に [メール] アイコン () が通知領域に表示され、新着メールチェック機能が開始できるので便利です。
 - 6 [OK] ボタンをクリックする
通知領域に [メール] アイコン () が表示されます。
続けて新着メールチェックのスケジュールを設定してください。

3 新着メールチェックのスケジュールを設定する

新着メールチェックを開始する日や時間を設定します。

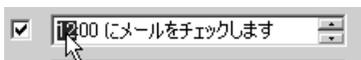
- 1 通知領域の [メール] アイコン (✉) を右クリックし①、表示されたメニューから [新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする②



- 2 [基本設定] タブで [スケジュール] を設定する



- ① [開始日] でチェックを開始する日を設定する
▼ ボタンを押すとカレンダーが表示されますので、開始したい日をクリックしてください。
- ② [継続日数] でチェックを続ける期間を設定する
最大 30 日まで設定できます。
- ③ 何時に新着メールチェックを行うか設定する
1 日に最大 3 回まで設定できます。チェックしたい回数だけチェックボックスをチェックします (☑)。
時間を設定するには、設定したい [時間] [分] にポイントをあわせてクリックします。数字が反転表示しますので、ボタンで設定します。



- 3 [詳細設定] タブで [タスクの実行時にスリープを解除する] と [レジューム後ハイバネーションする] をチェックする

スタンバイ機能を実行中、または休止状態のときに新着メールチェック機能を使用するときにチェックします。

[レジューム後ハイバネーションする] をチェックすると、新着メールチェック後に、自動的に休止状態になります。

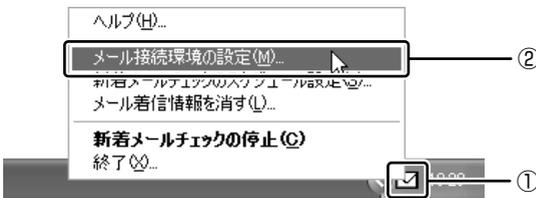
4 [OK] ボタンをクリックする

4 新着メールチェックの接続環境を設定する

初めて新着メールチェック機能を使用するときは、メールソフトの接続環境の設定が必要です。

新着メールチェック機能は新着メール数だけを確認できます。メールの内容を確認することはできません。メールの内容を確認するには、使用しているメールソフトで送受信を行う必要があります。

- 1 通知領域の [メール] アイコン (✉) を右クリックし①、表示されたメニューから [メール接続環境の設定] をクリックする②



- 2 [接続] タブで [POP3] をチェックし①、[設定] ボタンをクリックする②



- 3 必要な項目を入力する



プロバイダから指定されている [サーバ名] [ユーザ名] [パスワード] を入力してください。

- 4 [OK] ボタンをクリックする

- 5 [設定] 画面で [OK] ボタンをクリックする

5 モードパネルの設定

新着メールがあったときに、モードパネルに新着メール数が表示されるように設定します。

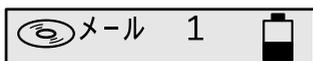
【新着モードパネルの設定メール数を表示する】

- 1 コントロールパネルを開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝コントロール] をクリックする
- 3 [モードパネル] タブの [表示モード] で、[新着メール情報を表示する] をチェックする ()



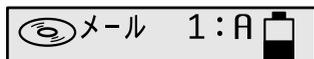
- 4 [OK] ボタンをクリックする

新着メールチェックが実行され、新着メールがあると、モードパネルに [メールXX] と表示されます。



【新着メール数とイニシャルを表示する】

モードパネルに新着メール数を表示するときに、イニシャルとしてお好きなアルファベット（大文字、小文字）半角1文字を追加して [メールXX:X] と表示させることができます。

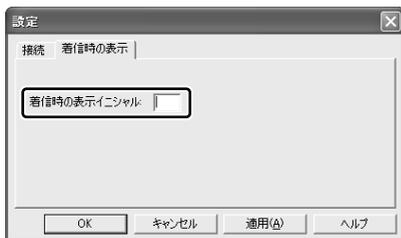


新着メール数を表示する設定を行ったうえで設定してください。

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [メール接続環境の設定] をクリックする

2 [着信時の表示] タブの [着信時の表示イニシャル] に、設定したいアルファベットを1文字入力する

設定できる文字は、アルファベットの大文字 (A ~ Z) または小文字 (a ~ z) のうち1文字です。半角で入力してください。



3 [OK] ボタンをクリックする

6 インターネットへの接続の設定

1 ACアダプタとモジュラーケーブルを接続する

2 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

3 [インターネットオプション] をクリックする

[インターネットのプロパティ] 画面が表示されます。

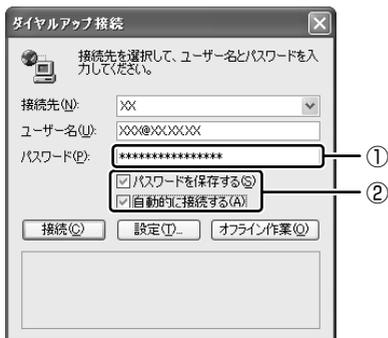
4 [接続] タブで [通常の接続でダイヤルする] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

5 Internet Explorer を起動する

参照 → Internet Explorer の起動方法
『基本をマスター 2章 1-① Internet Explorer の起動』

参照 → インターネット接続について
『まずはこれから インターネットに接続しよう』

- 6 [ダイヤルアップ接続] 画面で、[パスワード] にパスワードを入力し①、[パスワードを保存する] と [自動的に接続する] をチェックする② ()



7 [接続] ボタンをクリックする

1 度インターネットに接続して、設定を保存します。[キャンセル] ボタンや [閉じる] ボタン () をクリックすると設定は保存されません。インターネットに接続されると、[ダイヤルアップ接続] 画面が消えます。

8 インターネットへ接続を続ける必要がない場合、Internet Explorer の [閉じる] ボタン () をクリックする

9 [今すぐ切断する] をクリックする

インターネットへの接続が終了します。

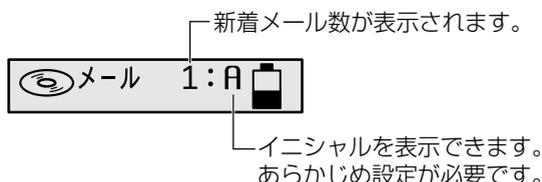
7 パソコンを起動せずに新着メールチェックをする

パソコンが起動していないときに、新着メールチェック機能を使うには、スタンバイを実行するか、休止状態にしてください。

参照 → スタンバイの実行、休止状態について
[5 章 3 パソコンの使用を中断する / 電源を切る]

2 新着メールを確認する

設定したスケジュールに従って、新着メールチェックが行われます。
新着メールがあると、モードパネルに新着メール件数が表示されます。



1 メール着信情報を消す

メールソフトを起動してメールの内容を確認した場合、新着メールをすべて既読にしてもモードパネルの新着メール件数の表示は消えません。この場合、次の方法で表示を消してください。

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [メール着信情報を消す] をクリックする
モードパネルの新着メール件数の表示が消えます。

3 新着メールチェックを停止する

1 新着メールチェック機能を一時停止する

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [新着メールチェックの停止] をクリックする
アイコンが () に変わり、新着メールチェック機能を一時的に停止します。

2 新着メールチェック機能を再開する

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [新着メールチェックの開始] をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
アイコンが () に変わり、設定したスケジュールに従って新着メールチェックを再開します。

3 新着メールチェック機能を終了する

1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [終了] をクリックする

2 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

アイコンの表示が消えます。

この操作を行ったあと、再び新着メールチェック機能を使用したいときは、「本節 ①-2 [メール] アイコンを通知領域に表示する (新着メールチェック機能を開始する)」を確認してください。

4 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
 - 分岐アダプタとは
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
 - 回線切換器とは
1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年1月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用するすると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

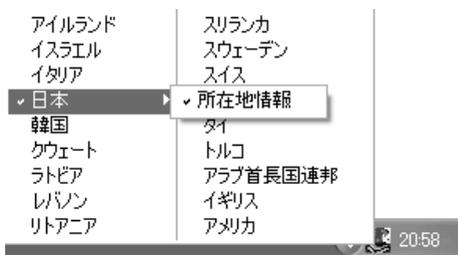
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

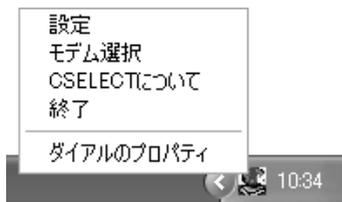
[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。

選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

